

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トキョウジヨウダガク 学校法人 東京女子大学									
フリガナ大学の名称	トキョウジヨウダガク 東京女子大学 (Tokyo Woman's Christian University)									
大学本部の位置	東京都杉並区善福寺二丁目6番1号									
大学の目的	東京女子大学は、キリスト教を教育の根本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教養を授け、専門の学術を教授研究し、もって真理と平和を愛し人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。									
新設学部等の目的	国際英語学科は、国際共通語としての英語とその言語文化の広がりをも専門的に考究し、英語の実践的かつ高度な運用能力と発信力を身に付けることを通して、世界の諸地域や国際化が進む日本国内の各地域で社会の発展に貢献できる人物の育成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年 月 第 年次	所在地		
	現代教養学部 (School of Arts and Sciences) 国際英語学科 (Division of English) 計	4	155  155	-  -	620  620	学士(教養)	平成30年4月 第1年次	東京都杉並区善福寺 二丁目6番1号		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成30年4月 現代教養学部 人文学科 [定員減] (△145) (平成30年4月) 国際社会学科 [定員増] ( 45) (平成30年4月) 人間科学科 (廃止) (△260) ※平成30年4月学生募集停止 心理・コミュニケーション学科 ( 195) (平成29年4月届出予定) 数理科学科 [定員増] ( 10) (平成30年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	現代教養学部 国際英語学科	208科目	129科目	16科目	353科目	130単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設分	現代教養学部 国際英語学科		7人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	11人 (10)	0人 (0)	254人 (200)
		現代教養学部 心理・コミュニケーション学科		15 (15)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	1 (1)	268 (197)
		計		22 (21)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	29 (28)	1 (1)	- (-)
	既設分	現代教養学部 人文学科		12 (13)	7 (6)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	2 (2)	304 (304)
		現代教養学部 国際社会学科		19 (20)	3 (1)	2 (2)	0 (0)	24 (23)	1 (1)	292 (288)
		現代教養学部 数理科学科		8 (10)	5 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	2 (3)	253 (261)
		共通教育		12 (13)	10 (9)	7 (7)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)
		情報処理センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	5 (5)
比較文化研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	16 (16)		
女性学研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)		
計		51 (56)	25 (19)	10 (10)	0 (0)	86 (85)	8 (9)	- (-)		
合計		73 (77)	32 (26)	10 (10)	0 (0)	115 (113)	9 (10)	- (-)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		100 人 (100)	33 人 (33)	133 人 (133)					
	技 術 職 員		2 (2)	3 (3)	5 (5)					
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		108 (108)	36 (36)	144 (144)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	80,218㎡	㎡	㎡	80,218㎡	大学全体				
	運 動 場 用 地	9,235㎡	㎡	㎡	9,235㎡					
	小 計	89,453㎡	㎡	㎡	89,453㎡					
	そ の 他	5,080㎡	㎡	㎡	5,080㎡					
	合 計	94,533㎡	㎡	㎡	94,533㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		23,256㎡ (23,256㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	23,256㎡ (23,256㎡)	大学全体				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	52室	25室	31室	7室 (補助職員0人)	7室 (補助職員7人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		現代教養学部 国際英語学科		11 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学科単位での特定不能なため、大学全体の数		
	現代教養学部 国際英語学科	552,000 [146,000] (518,346 [139,208])	13,030 [9,860] (12,867 [1,733])	8,090 [8,080] (7,931 [7,353])	11,527 10,847	8,107 ( 8,107 )	34 ( 34 )			
	計	552,000 [146,000] (518,346 [139,208])	13,030 [9,860] (12,867 [1,733])	8,090 [8,080] (7,931 [7,353])	11,527 10,847	8,107 ( 8,107 )	34 ( 34 )			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		5,763 ㎡		750 席	562,000冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		1,688㎡								
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		480千円	480千円	480千円	480千円			
		共同研究費等		5,589千円	5,589千円	5,589千円	5,589千円			
		図書購入費	107,040千円	107,040千円	107,040千円	107,040千円	107,040千円			
	設備購入費	7,600千円	7,600千円	7,600千円	7,600千円	7,600千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,300千円	1,080千円	1,060千円	1,060千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
大 学 の 名 称		東京女子大学								
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍		東京都杉並区善福寺		
現代教養学部										
人文学科	4	345	—	1,380	学士(教養)	1.13	平成21年度			
国際社会学科	4	225	—	900	〃	1.12	〃			
人間科学科	4	260	—	1040	〃	1.08	〃			
数理学科	4	60	—	240	学士(理学)	1.22	〃			
計	—	890	—	3,560		1.12		平成30年度より募集停止		

既設大学等の状況	東京女子大学大学院											
	人間科学研究科											
	(博士前期課程)											
	人間文化科学専攻	2	22	—	44	修士(人間文化科学)	0.54	平成24年度				
	人間社会科学専攻	2	20	—	40	修士(人間社会科学)	0.62	〃				
	計	—	42	—	84		0.58					
	(博士前期課程)											
	人間文化科学専攻	3	4	—	12	博士(人間文化科学)	0.25	平成17年度				
	生涯人間科学専攻	3	5	—	15	博士(生涯人間科学)	0.33	〃				
	計	—	9	—	27		0.29					
理学研究科												
数学専攻												
(博士前期課程)	2	6	—	12	修士(理学)	0.41	昭和46年度				平成17年度に数学専攻修士課程を博士課程に課程変更	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(理学)	0.11	平成17年度					
計	—	9	—	21		0.26						
附属施設の概要	<p>名称 東京女子大学図書館  目的 東京女子大学における教育及び研究に対する図書館の使命を十分に果たすため、本学における図書館資料の収集、管理及び効果的な運用を図るとともに、学術情報の提供に努める。  所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号  設置年月 昭和23年4月  規模等 兼任教員：館長1名、委員16名  蔵書数：約57万冊（逐次刊行物、視聴覚資料を含む）</p> <p>名称 東京女子大学比較文化研究所  目的 人文・社会・自然の諸領域における比較文化的研究及び日本キリスト教史・キリスト教文化に関する研究と資料の収集を行い、併せて国内外の学術交流に貢献する。  所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号  設置年月 昭和29年6月  規模等 兼任教員：所長1名、副所長1名、商議員7名、運営委員7名  兼任教員：商議員1名</p> <p>名称 東京女子大学女性学研究所  目的 真に平等な社会の実現をめざし、女性学の研究・教育の発展に資する国内外共同研究の場として設置され、(1)女性学研究所の促進、(2)教育面における女性学の実践、(3)女性学の発展を目的とした国内外における研究交流、(4)アジア諸国における女性学ネットワークの形成を目的として活動する。  所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号  設置年月 平成2年7月（昭和51年比較文化研究所内に女性学センターが併設され、平成2年7月に独立）  規模等 兼任教員：所長1名、副所長1名、商議員7名、運営委員5名</p> <p>名称 東京女子大学情報処理センター  目的 情報処理活動を通じ東京女子大学の教育及び研究の向上並びに事務処理の円滑な運営に資する。  所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号  設置年月 昭和63年11月（昭和45年3月設置電子計算室を改名）  規模等 兼任教員：センター長1名、運営委員4名  設備：サーバー 31台  パソコン 200台</p>											

	<p>名称 東京女子大学心理臨床センター          目的 本学大学院人間科学研究科人間社会科学専攻臨床心理学分野の学生の臨床実習及び臨床心理学に関する研修、研究等を行い、さらに、地域社会・地域住民等の要請に応じて心理臨床活動を展開し、必要に応じて学内外の諸機関と協働し、地域社会の成長・発展と本学の教育・研究の推進に寄与する。          所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号          設置年月 平成21年4月          規模等 兼担教員：センター長1名、指導相談員4名          兼任相談員：指導相談員1名、相談員4名          その他：臨床心理学分野の実習生</p> <p>名称 東京女子大学エンパワーメント・センター          目的 自分自身をエンパワーすることにより、生涯にわたるキャリアを歩み、性別、国籍、宗教、職業、身体状況、年齢等の多様性を受容し、共生社会の形成に貢献する本学学生、卒業生及び修了生、加えて地域住民等を支援・育成する。          所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号          設置年月 平成25年4月          規模等 兼担教員：センター長1名、運営委員3名</p>	
--	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」, 「新設学部等の目的」, 「新設学部等の概要」, 「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校 の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」, 「校地等」, 「校舎」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」, 「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。



# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	英語学 (社会言語学)	3・4後		2		○									兼1	「英語学演習(社会言語学)」 と交互に開講
	英語学 (英語史)	3・4前		2		○									兼1	
	英語指導法	2・3前		2		○									兼1	
	児童英語指導法	2・3前		2		○									兼1	
	第二言語習得研究法	2・3前		2		○									兼1	
	翻訳学特論	2・3・4後		2		○			1							
	通訳学特論	2・3・4前		2		○			1							
	小計 (33科目)	—	0	66	0	—	—	—	6	4	0	0	0	兼11		
基 盤 演 習	1年次演習 (国際英語)	1前	2				○		4	1					兼2	6単位必修
	Study Abroad 基礎演習	1後	2				○		4	2					兼1	
	First-Year English Seminar I	1前	4				○								兼7	
	First-Year English Seminar II	1後	4				○								兼7	
	Second-Year English Seminar	2前	2				○								兼7	
	Research Project for Study Abroad	2前	2				○		3	2					兼2	
	英語音声学	1後		2			○								兼1	
	英文法	1後		2			○								兼1	
	English Studies 入門演習 I	1前		2			○		1	1					兼1	
	English Studies 入門演習 II (文学)	1後		2			○			1						
	English Studies 入門演習 II (文化)	1後		2			○		1							
	English Studies 入門演習 II (言語)	1後		2			○			1						
	英語教育入門演習	1後		2			○								兼1	
	児童英語教育入門演習	1後		2			○								兼1	
	第二言語習得入門演習	1後		2			○								兼1	
	Classroom English 入門演習	2前		2			○								兼1	
	Professional English 入門演習A	1前		2			○								兼1	
	Professional English 入門演習B	1後		2			○				1					
	Public Speaking	2前		2			○								兼1	
	翻訳入門演習	2前		2			○				1					
通訳入門演習	2前		2			○		1								
Study Abroad English	2・3		2~10			○		—	—	—	—	—	—	—	4単位必修	
Study Abroad Academics	2・3		2~16			○		—	—	—	—	—	—	—		
	小計 (23科目)	—	16	34~ 56	0	—	—	—	5	4	0	0	0	兼16		
発 展 演 習	時事英語	2・3・4前		2			○								兼1	「英語文学 (演劇)」と 交互に開講 「英語文学 (小説)」と交互 に開講 「英語文学 (詩)」と交互 に開講 「英語文学 (児童文学)」と 交互に開講 「英語文学 (比較文学)」と 交互に開講 「英語文学 (映像と言語表現 )」と交互に開講 「英語学 (意味論)」と交互 に開講 「英語学 (語用論)」と交互 に開講 「英語学 (音韻論)」と交互 に開講 「英語学 (形態・統語論)」と 交互に開講
	Critical Thinking	2・3・4前		2			○								兼1	
	3年次演習 (国際英語) I	3前	2				○		3	3					兼1	
	3年次演習 (国際英語) II	3後	2				○		4	2					兼1	
	Third-Year Research Writing I	3前	2				○		2						兼5	
	Third-Year Research Writing II	3後	2				○		2						兼5	
	英語文学演習 (演劇)	3・4前		2			○								兼1	
	英語文学演習 (小説)	3・4前		2			○		1							
	英語文学演習 (詩)	3・4後		2			○		1							
	英語文学演習 (児童文学)	3・4前		2			○		1							
	英語文学演習 (比較文学)	3・4後		2			○			1						
	英語文学演習 (映像と言語表現)	3・4前		2			○		1							
	英語学演習 (意味論)	3・4前		2			○								兼1	
	英語学演習 (語用論)	3・4前		2			○								兼1	
	英語学演習 (音韻論)	3・4後		2			○								兼1	
英語学演習 (形態・統語論)	3・4前		2			○			1							



# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	微分と積分の基礎	1・2・3・4前		2		○								兼1	2単位必修
	微分と積分の考え方とその応用	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	確率統計の基礎	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	総合教養演習 (人間と自然科学) (人間自身を知る)	2・3・4後		2			○							兼1	
	こころの科学	1・2・3・4前後		2		○								兼2	
	こころと社会	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	こどものこころ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	こころの健康	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	こころの進化	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	思考と論理	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	科学技術と倫理	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	現代人の哲学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	西洋の哲学のあゆみ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	東洋の哲学のあゆみ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	比較思想	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	宗教学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	日本宗教史	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	宗教と現代社会	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	総合教養演習 (人間自身を知る) (人間の知的生産)	2・3・4前		2			○							兼1	
	ことばの世界	1・2・3・4前後		2		○								兼2	
	日本の文学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	児童文学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	比較文学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	比較文化	1・2・3・4前		2		○			1					兼2	
	宗教音楽	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	音楽芸術	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	音楽史	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	美術論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	映像論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	舞台芸術論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	日本文化史	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本の伝統芸能	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	世界の地域と民族	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	ヨーロッパの歴史と文化	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	アメリカの歴史と文化	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	ラテンアメリカの歴史と文化	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	アジアの歴史と文化	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	民俗学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	歴史の見方	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	現代史の諸相	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	アーカイブの世界	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	総合教養演習 (人間の知的生産) (人間社会の仕組みと問題)	2・3・4前		2			○		1					兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4前後		2		○								兼3	
	公共政策と法	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	市民社会と法	1・2・3・4後		2		○								兼1	

オムニバス・共同 (一部)

①と②を交互に開講  
①「美術論」「映像論」  
②舞台芸術論

2単位必修

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際社会と人権	1・2・3・4後		2		○								兼1	2単位必修 } 交互に開講 } 交互に開講
	自治と行政	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会学と現代社会	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	地域社会論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会保障と社会福祉	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	情報と社会	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	現代社会と教育	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	近現代日本の政治史	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	国際社会と日本	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	平和学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	ヨーロッパの比較政治	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	アジアの比較政治	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本の産業と企業	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本経済のしくみ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	グローバル経済のしくみ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	アジアの経済事情	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	国際金融と貿易	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	統計のしくみ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	統計分析を学ぶ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	エネルギー産業と国民生活	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	総合教養演習 (人間社会の仕組みと問題)	2・3・4後		2			○							兼1	
	<b>(女性のウェルネス)</b>														
	女性のウェルネス・身体運動Ⅰ	1前	1					○						兼9	
	女性のウェルネス・身体運動Ⅱ	1後	1					○						兼9	
	<b>講義</b>														
	からだの科学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	発育と発達	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	栄養と健康	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	現代社会と身体	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	女性の健康科学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	性と生命 (セクソロジー)	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	女性の心身コンディショニング	2・3・4後		2		○								兼1	
	<b>実習</b>														
	スポーツA	2・3・4後		1				○						兼1	
	スポーツB	2・3・4後		1				○						兼1	
	スポーツC	2・3・4後		1				○						兼1	
	スポーツD	2・3・4前		1				○						兼1	
	フィジカルエクササイズA	2・3・4前後		1				○						兼1	
	フィジカルエクササイズB	2・3・4前後		1				○						兼1	
	フィジカルエクササイズC	2・3・4前		1				○						兼1	
	身体表現A	2・3・4前		1				○						兼1	
	身体表現B	2・3・4後		1				○						兼1	
	身体表現C	2・3・4前		1				○						兼1	
	小計 (113科目)	—	2	212	0	—			2	0	0	0	0	兼94	「身体表現C」と交互に開講 「身体表現A」と交互に開講



# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	English for Specific Purposes															
	Business English A	2・3・4前		1			○									兼1
	Business English B	2・3・4後		1			○									兼1
	Translation A	2・3・4前後		1			○									兼1
	Translation B	2・3・4前後		1			○									兼1
	Tour Guide Interpreting A	2・3・4前		1			○									兼1
	Tour Guide Interpreting B	2・3・4後		1			○									兼1
	English Proficiency Test Classes															
	TOEIC講座	1・2・3・4前後		1			○									兼3
	TOEFL講座	1・2・3・4前後		1			○									兼2
	IELTS講座	1・2・3・4前後		1			○									兼2
	Basic Communicative English	1前		2			○									兼2
	Intensive English	1・2・3・4通		2			○		—	—	—	—	—			—
	(第二外国語)															
	ドイツ語初級	1通		4			○									兼4
	フランス語初級	1通		4			○									兼8
	スペイン語初級	1通		4			○									兼11
	中国語初級	1通		4			○									兼14
	韓国語初級	1通		4			○									兼8
	ドイツ語(読解) A	2・3・4前後		1			○									兼1
	ドイツ語(読解) B	2・3・4前後		1			○									兼1
	ドイツ語(作文と文法)	2・3・4前後		1			○									兼1
	ドイツ語(会話)	2・3・4前後		1			○									兼1
	フランス語(読解) A	2・3・4前後		1			○									兼2
	フランス語(読解) B	2・3・4後		1			○									兼1
	フランス語(作文と文法)	2・3・4前後		1			○									兼1
	フランス語(会話)	2・3・4前後		1			○									兼3
	スペイン語(読解) A	2・3・4前後		1			○									兼1
	スペイン語(読解) B	2・3・4前後		1			○									兼1
	スペイン語(作文と文法)	2・3・4前後		1			○									兼2
	スペイン語(会話)	2・3・4前後		1			○									兼1
	中国語(読解) A	2・3・4前後		1			○									兼1
	中国語(読解) B	2・3・4前後		1			○									兼1
	中国語(作文と文法)	2・3・4前後		1			○									兼3
	中国語(会話)	2・3・4前後		1			○									兼3
	韓国語(読解) A	2・3・4前		1			○									兼1
	韓国語(読解) B	2・3・4後		1			○									兼1
	韓国語(作文と文法)	2・3・4前後		1			○									兼1
	韓国語(会話)	2・3・4前後		1			○									兼2
	(ギリシア語・ラテン語)															
	ギリシア語初級1	1・2・3・4前		1			○									兼1
	ギリシア語初級2	1・2・3・4後		1			○									兼1
	ラテン語初級1	1・2・3・4前		1			○									兼1
	ラテン語初級2	1・2・3・4後		1			○									兼1
	小計(58科目)	—	6	69	0		—		7	4	0	0	0			兼101
日 本 語 科 目	日本語表現法	1・2限定前後		2			○									兼8
	小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0			兼8

4単位必修

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報処理科目	情報処理技法 (リテラシ) I	1前	2			○									兼7
	情報処理技法 (リテラシ) II	1後	2			○									兼8
	情報処理技法 (Cプログラミング) I	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理技法 (Cプログラミング) II	2・3・4前		2		○									兼1
	情報処理技法 (Javaプログラミング) I	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理技法 (Javaプログラミング) II	2・3・4後		2		○									兼1
	情報処理技法 (マルチメディアと表現) I	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	情報処理技法 (マルチメディアと表現) II	2・3・4後		2		○									兼2
	情報処理技法 (UNIXリテラシ)	1・2・3・4後		2		○									兼1
	情報処理技法 (統計解析)	2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理技法 (ネットワークとセキュリティ)	2・3・4後		2		○									兼1
	情報処理技法 (Webでの情報表現)	2・3・4前		2		○									兼1
	コンピュータ・サイエンス I	1・2・3・4前		2		○									兼1
	コンピュータ・サイエンス II	1・2・3・4後		2		○									兼1
小計 (14科目)	—	—	4	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼17
教職課程科目	教職に関する科目														
	教職論	1・2・3前後		2		○									兼2
	教育原論	2・3・4前		2		○									兼1
	教育心理学	2・3・4後		2		○									兼1
	教育社会学	2・3・4後		2		○									兼1
	教育課程・教育方法論	2・3前後		2		○									兼1
	英語科教育法 I A	2前			2	○			1						
	英語科教育法 I B	3前			2	○			1						
	英語科教育法 II A	3後			2	○									兼1
	英語科教育法 II B	3後			2	○									兼1
	道徳教育の理論と方法	2・3・4前			2	○									兼1
	特別活動論	2・3・4前			2	○									兼1
	生徒・進路指導論	2・3・4前			2	○									兼1
	教育相談	2・3前			2	○									兼1
教育実習事前事後指導	3後			1	○									兼3	
教育実習	4			4			○							兼2	
教職実践演習 (中・高)	4後			2		○	○							兼3	
介護等の体験関連科目															
特別支援教育と社会福祉	1・2・3前後			2	○									兼1	
小計 (17科目)	—	—	0	12	23	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼7
学芸員課程科目	博物館概論	2前		2		○									兼1
	博物館資料論	2前		2		○									兼1
	博物館経営論	2・3後		2		○									兼1
	博物館資料保存論	2・3後		2		○									兼1
	博物館展示論	2・3後		2		○									兼1
	博物館教育論	2・3前		2		○									兼1
	生涯学習論	2・3・4前		2		○									兼1
	博物館情報・メディア論	2・3・4前後		2		○									兼1
	博物館実習 1	3前			1			○							兼2
	博物館実習 2	3後			1			○							兼2
	博物館実習 3	4通			1			○							兼1
小計 (11科目)	—	—	0	16	3	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8

教育職員の資格を得ようとする者は必修

中学校教諭免許状を取得する場合は2単位必修

教育職員の資格を得ようとする者は必修

オムニバス・共同 (一部)

オムニバス・共同 (一部)

学芸員の資格を得ようとする者は必修



授 業 科 目 の 概 要			
(現代教養学部 国際英語学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 目	国際英語と女性の生き方	国際英語は、英語圏のみならず非英語圏においても、さまざまなコミュニケーションの手段としての役割が期待される。本講義は、そうした国際英語の機能と広がりについて、その基本的な特徴や活用方法、効果的な運用事例をグローバル化する国際情勢を念頭に置いて学ぶ。併せて、このような国際英語を活用した女性のさまざまなキャリア形成のあり方について、世界各地におけるこれまでの歴史的経緯や特徴、各種の事例や現況を検討しつつ、その将来的な可能性と留意すべき諸点を多面的に考察する。	
	異文化理解A	世界の多様な文化を「異文化」として認識し、その異文化を相互に理解し合い、コミュニケーションが可能となることを目標とし、特に英語圏を対象として考察する。異文化理解は生活の諸側面に及ぶが、この授業では、特に英語圏の生活習慣、感性表象、社会的制度等に見られる文化的表象の特質に注目し、その特徴を文化的、歴史的、地理的角度から学ぶ。あわせて、文化によって醸成されるアイデンティティ理解のための基礎的方法論についても学習する。	
	異文化理解B	本講義では特に英語圏の言語文化の諸相に注目し、英語を媒介とする言語文化の視点から異文化理解の特徴と方法論を学ぶ。言語文化的視点からみた異文化理解には、まず英語コミュニケーションの諸特徴やそこで生じるコミュニケーション・ギャップの問題を理解することが肝要であるが、こうした基本的問題とともに、言語を基盤として形成された思想や文学、各文化に固有の日常的な文書様式、感性の表現などにも視野を広げ、それらの特徴を把握することで英語圏を対象とする異文化理解に資する方法を考察することも含まれる。	
	Japanese Culture & Literature	英語に翻訳された日本の文学作品、あるいは英語で書かれた日本文学論や文化論を読みながら、世界から、日本の文学や文化のどのような点に興味をもたれ、どのような特徴があると捉えられているのかを理解する。こうした文献をふまえたうえで、外国人の興味や関心のありかを理解しそれに応える形で、あるいは逆にどのような形で「日本」の特質を発信してゆくべきであるかを自ら考えて、日本の文学や文学を、英語で発信してゆく力を身につける。	
	英語グローバル人材論	本講義はまず、日本および海外諸地域におけるさまざまな職業や社会的活動を念頭に、現在、英語がどのように活用されているのかについて、その状況を的確に理解する。その上で、そうした現況を参照しつつ、自らの資質を生かせる実践的なキャリア形成を具体的に構想できる知識を習得する。あわせて、グローバル化の進む国際社会にあって、英語を活用した新たな社会貢献の可能性を考察し、そうした可能性の実現へ向けた営みを自立的に進めることのできる知見を養う。	
	English Studies 基礎論 (文学研究)	本講義では英語文化圏の文学を、イギリスとアメリカを中心に概観する。文学史的概論の後、具体的な文学テキストを取り上げ、文学を読み解く際に必要となる概念、例えば「人物設定」、「プロット」、「視点」、「アイロニー」、「寓意」などを学習させ、言語表現の諸特徴や象徴、暗示を読み解く方法を学ばせる。また、時代状況や文化的コンテキストがテキストに与える影響を論じ、時代的・文化的コンテキストに基づき読み解く力を身につけさせる。	
	English Studies 基礎論 (批評研究)	英語圏文学・文化を分析する際に必要な、英語で書かれた主要な批評理論を習得させる。本講義では、さまざまな文化の様相を分析し、その社会的意味を探究するカルチュラル・スタディーズとの関わりをも考慮に入れる。具体的には、英語圏の主要な文学・文化批評理論を取り上げて英語で読み、内容を考察した後、具体的にその理論を英語圏の文学作品や文化現象といったテキストに適応させてみることで、文学・文化の表象が視点の変化によりいかに異なる意味をもち得るかを認識させる。	
	English Studies 基礎論 (文化研究)	本講義においては、英語圏の文化をテキストとして、色々なテーマに即して「読む」ことにより、それらがさまざまな時代の多様なコンテキストにおいてどのような意味をもっているかを深く学ばせることを目標とする。具体的には、英語圏の文化を表象する媒体(映画、新聞、広告、写真など)をいくつか取り上げて読み解き、それらの文化的・社会的意味を考察させる。必要に応じて基本的な批評理論を学び、作品および文化へのより深い理解を目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	English Studies 基礎論 (言語と社会)	言語は単なる記号体系として存在するのではなく、それを用いる人がいて、その人たちによって構成される社会がある。言語は人間にとってもっとも身近な存在であり、そこには私たちの住む社会のあり方が直接的、あるいは間接的に反映されている。この講義では、言語としての英語について、特に社会との関連に焦点をあてて、英語圏と日本との比較対照も加えながら概観する。英語の社会言語学的研究への導入を意図した授業である。	
	English Studies 基礎論 (言語の構造)	英語の単語・文における構造的な特質について理解するために、英語を、日本語をはじめとする様々な言語(英語のバリエーションも含む)と比較することによって、その構造上の共通点、相違点を体系的に分析し、考察を加える。授業では文法的・非文法的な英文を、最小対等を用いることによって丁寧に観察し、記述する訓練をする。またそれと同時に、先行研究においてそれらにどのような説明が与えられているかについても概観し、理解する。	
	英語教育基礎論 A	英語教育の理論的な側面に関する基本的な知識として、英語教授法や英語教育の変遷、英語教育政策、第二言語習得研究等の関連分野等を包括的に説明し、英語教育に関する理解を深める。この知識をもとに、日本やアジア諸国のみでなく、ヨーロッパ等の諸外国の英語教育と比較したり、英語教授法や第二言語習得研究の観点から英語教育の様々な現状を分析したりする。さらに、将来を見据えて英語教育の現状をどのように改善すべきかを考察する。	
	英語教育基礎論 B	英語教育の実践的な側面に関する基本的な知識として、英語教授法や英語の各技能の指導法、指導技術等を包括的に概説して英語教育の実践に関する理解を深める。その理解をもとに、授業ビデオの視聴や公開授業の参観を通して、英語教育の実践の現状を比較・分析したり、授業の指導案や教材、評価方法や年間カリキュラム等の作成や開発に取り組むことで英語教育を実体得する。これらの活動をもとに、英語教育の実践の将来像を展望する。	
	第二言語習得基礎論 A	本講義では第二言語習得に関する主要な理論や仮説を概観しながら、学習者に共通した第二言語習得の一般的なメカニズムについて理論的に解説する。これらの基礎的な知識の理解をもとに、日本における英語教育や英語学習などの現状を分析する能力を高める活動を実施する。さらに、この分析能力を活用して、第二言語習得の一般的なメカニズムの観点から、日本における英語教育の改善方法や履修者自身の英語学習の効率化などに関した考察ができるようになることを目指す。	
	第二言語習得基礎論 B	本講義では、第二言語習得のプロセスで学習者ごとに異なる個人差を引き起こすメカニズムを扱い、それに関連するさまざまな要因を概観しながら、第二言語習得に見られる個人差について理論的に詳説する。これらの知識の理解を踏まえ、各種の事例を使って第二言語学習や第二言語教育の現状を分析する能力を養う。最終的には、第二言語習得の個人差を引き起こすメカニズムの観点から、第二言語学習の効率化や第二言語教育の改善のための方法が提案できるようになることを目指す。	
	言語の多様性と普遍性 A	日本語・英語・その他の音声言語や手話言語には、非常に異なって見える現象の背後に共通のシステムを見出すことがある。そのような発見を通して、自然言語において基本要素を組み合わせて複雑な表現を作るしくみ、子どもが周囲の会話を手がかりに母語を獲得する上で必要となる生物学的な基盤と環境との関わりを考える思考法を身につける。履修者の多くにとって、自覚する間もなく習得した日本語、学ぶべき外国語とされている英語を、他の言語と並べて分析する体験を通して、自分が持つ枠組みを相対化して見る姿勢を身につける。	
	言語の多様性と普遍性 B	世界の言語には、語や形態素の組合せ方、格表示や一致現象の有無、語順やアクセント、省略の可否など様々な違いが見られる一方、全く親族関係のない言語間に同じ規則性が観察されることもある。20世紀後半以降の言語研究は、個別言語の記述的妥当性を超え、世界の言語の多様性と普遍性に注目してその原因を追求している。このような言語研究の例に出会い、科学的思考を支える考え方を学ぶとともに、言語を通して人間を理解しようとする人間の営みを体験する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	翻訳基礎論	広い意味での異文化交流・異言語間コミュニケーションを考え理解するうえで、「翻訳」が果たす役割に着目した翻訳入門科目である。翻訳学(旧称「翻訳研究」)は比較的新しい学際的な学問領域であり、様々なアプローチが可能である。その中から、本科目では、「受容」と「影響関係」を軸に、この学問領域に導入する。合わせて、「日英語対照」によるテキスト分析方法も紹介しつつ、翻訳実践の基盤も作る。	
	通訳基礎論	通訳は、高度な母国語能力と外国語能力(英語)、言語の文化的背景を含む幅広い教養などを必要とする専門職である。本講座では、通訳に必要なこれらの能力や教養を身につけるための基礎的段階として、その性質や運用方法に関する基本的な知見を習得することを目標とする。あわせて、グローバル化する国際社会における通訳の多様な役割、社会的貢献、新たなニーズなどについて、実践的な場面の事例研究を通じて考察し、通訳に関する学問的基礎とその広がりを理解する。	
	Professional English 基礎論	本講義は、国際英語にかかわる言語文化的理解によって支えられた英語の高度な運用能力が、グローバル化の進む国内外の各種の産業や公的・社会的活動の諸側面において有効に機能し、大きな社会貢献を果たすものであることを理解するとともに、そうした幅広い知見と英語の運用能力を身につけるための基本的な方法と課題を考察することを目的とする。社会の各種の場面で英語が機能し活用される状況を、実践的な事例研究を中心に理解する。	
特殊講義	英語文化リソース論	本講義では、英語を基盤とするさまざまな文化的リソースが、各種の産業をはじめ、社会の諸活動に与えるさまざまな影響と、逆に、社会的諸状況がそうした文化的リソースの形成にもたらす影響関係とを具体的実践的に考察し、英語を基盤とする文化的リソースが果たす社会的役割を学ぶ。各種歴史的な文書の蓄積、出版文化の推移、映像や映画、広告・広報、その他、各種のポピュラー・カルチャーなどが考察の対象となる。あわせて、英語文化リソースの日本への影響についても学ぶ。	
	テーマ研究 (ジェンダー研究)	本講義においては、ジェンダーという概念を学ぶところから出発し、関連するキーワードを概観する。その上で、英語圏、特に英米を中心に、ジェンダーに関する概念が発達してきた歴史的、文化的コンテキストを学習させる。以上の概観を踏まえ、ジェンダー研究の代表的なテキストや、ジェンダー研究の観点から読まれるべきテキストを紹介し、理論を学ぶと共に、理論を用いた分析方法を習得させることを目標とする。	
	テーマ研究 (英米文学)	本講義においては、英米を代表する作品をいくつか取り上げ、作品のテーマを解説し、作品を読み解くための様々な概念を概説する。時代背景や文化的背景の異なるテキストを取り上げることになる。その上で、テキストが書かれ、発表された時代的、文化的コンテキストと、テーマや記述の仕方との関連を学ばせる。受講者自身がそれぞれのテキストに向き合うよう導き、テキストを読み解く力を養うための方法も身につけさせる。	
	テーマ研究 (英語と世界文学)	英米文学の授業では扱わなかった英語圏の文学、および英語で書かれた文学、さらには英語に翻訳された文学など、英語という言葉で文学を読むことの意義を考えることを本講義の目標とする。「多文化主義」、「植民地主義」、「グローバリズム」、「越境・移動」、「翻訳」といった観点から、世界のさまざまな地域の文学を読解し、その作業を通して価値観を相対化する視野を獲得させることを目指す。	
	テーマ研究 (英語教育と第二言語習得)	英語教育は英語の指導法を、第二言語習得は英語を含む第二言語の学習のプロセスを研究主題としており、それぞれの研究対象は指導者と学習者であるが、両分野は密接不可分の相関関係にある。本講義では、英語教育の実践や英語教育政策、英語の学習法等の身近な話題を取り上げて、英語教育と第二言語習得の両観点から、その現状を包括的に分析・把握した上で、これらの英語教育や英語学習に関連する諸問題への解決策を提示することができる力を養う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	テーマ研究 (Professional English)	履修者が、3領域(翻訳・通訳・実務英語)それぞれの学びの特徴を捉え、問題意識を明確にできるようにするために、各領域の担当者が交代で講じるオムニバス形式で行う。履修者の実習・実作やコメントを求めながら進める双方向型の授業とする。 (オムニバス方式/全15回) (8 安部由紀子、10 田中美保子、4 鶴田知佳子/3回)(共同) プロフェッショナル・イングリッシュのためのイントロダクション、まとめ (8 安部由紀子/4回) 実践英語の諸形態 (10 田中美保子/4回) 翻訳の機能と効用 (4 鶴田知佳子/4回) 通訳の機能と効用	オムニバス方式・共同 (一部)
	比較文化A	日本語を媒介として、他の国やエリアに関わる文化受容の諸問題を考察する。近現代の日本人が異文化と向き合うことで、どのような他者像を形成し、どのように自己のアイデンティティを考えたのかを明らかにしてゆく。また異文化との交流によって、複数の文化が混ざり合い、新たな文化が形成される過程を分析する。	「比較文化A・B」と「表象文化A・B」を交互に開講
	比較文化B	本講義は、国際英語の分野からみた比較文化研究にかかわる重要な事例を具体的に考察し、その特徴を理解するとともに、その理解を発展させ、国際的な視野から見た比較文化研究全般に応用できる力を養うことを目的とする。また、講義で扱う具体的な事例を参照して、自ら比較文化研究に資する課題の発見や探求をおこなえる力を涵養する。国際英語の分野からみた比較文化研究にかかわる事例としては、主に英語圏から日本を含む非英語圏に及んだ文化的影響関係を扱う。	〃
	表象文化A	日本語を媒介として、日本で形成されてきた表象文化と、海外から発信され日本に紹介された表象文化を考察する。明治・大正・昭和の時代に、西欧文化と向き合うことで、日本の都市空間や文化は大きく変容した。文学を含む言語表現や、写真や美術などのヴィジュアルな表現を通して、モダニズムの姿を明らかにする。	〃
	表象文化B	本講義は、国際英語の分野からみた表象文化研究にかかわる重要な事例を具体的に考察し、その特徴を理解するとともに、その理解を発展させ、国際的な視野から見た表象文化研究全般に応用できる力を養うことを目的とする。また、講義で扱う具体的な事例を参照して、自ら表象文化研究に資する課題の発見や探求をおこなえる力を涵養する。国際英語の分野からみた表象文化研究にかかわる事例としては、主に英語圏から日本を含む非英語圏へ広がりをもせたものを扱う。	〃
	英語文学 (演劇)	演劇という英語表現ジャンルの特徴及び演劇が、さまざまな時代の多様な領域の英語圏文化において、どのような意味をもっているかを本講義では講じる。具体的には、イギリス・アメリカを中心とした英語圏文化が生み出してきた代表的な戯曲をいくつか取り上げ、英語によって解説・分析を行う。実際の上演を考慮に入れながら、それら演劇作品の文学的・文化的・社会的意味を考察させる。現代批評理論を用いた分析方法についても解説する。	「英語文学演習(演劇)」と交互に開講
	英語文学 (小説)	この授業は英語圏の国々で書かれた小説を、種々の問題意識(人種、階級、ジェンダーなど)に沿って読解し理解を深めるとともに、各種の方法論を用いて分析することを目標とする授業である。個々のテキストの精読をさらに発展させ、ある個別の文化現象をテーマに設定し、国境を越えた幅広い文学作品群を歴史・文化の側面から多面的に扱う可能性も視野に入れて授業を進める。	「英語文学演習(小説)」と交互に開講
	英語文学 (詩)	英米のみならず、その他の英語文化圏における英語で書かれた詩作品を通して、詩的言語の特徴とその世界認識のあり方を理解するための講義である。英語詩をよりよく理解するために、形式や技法についての知識を深めるとともに、詩人やその作品の背景となる歴史的状況、たとえば社会や文化の変遷などについても学習し、具体的な作品を複眼的な視野によって深いレベルで分析する。現代批評理論の詩作品分析への応用についても解説する。	「英語文学演習(詩)」と交互に開講

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語文学 (児童文学)	人間・社会・世界に目を開かせ、自己確認と自己確立を促し、楽しませつつ深く考えさせるという児童文学の本質を論じる。英語圏児童文学を主たる題材とし、リアリズムやファンタジー等の種々のサブジャンルにわたる作品の原書を講読することにより、このような本質についての理解を深める。このジャンルの多層性を読み取るために個別の作家の時代背景を、とくにその文化的側面を中心に考察する。英米文化における「子ども観」の変遷にも目を配る。児童文学が一般小説と共有する基本的要素の分析と理解を通じて、比較的易しい表現に隠れた作品の主題を解説する。	「英語文学演習 (児童文学)」と交互に開講
	英語文学 (比較文学)	比較文学の理論や方法を概観するところから始めるが、特に英語圏、および英語圏の文学テキストとの関係で、いくつかの理論や方法にスポットを当て、実際のテキストを題材に比較する方法を学ぶことが本講義の目標である。あるテキストと別のテキストの影響関係を実証的に研究する方法や、国や地域といった文化的コンテキストの異なるテキストを対比する方法、文化的コンテキストの異なる文学の受容を研究する方法、さらには様々な理論を相互参照する方法などから特定のトピックに焦点をあて講じる。	「英語文学演習 (比較文学)」と交互に開講
	英語文学 (映像と言語表現)	映像とは映画、テレビ、写真などの画像であるが、映像は映像のみで完結することは少なく、言語表現を伴うものが大半である。本講義では、一つには英語圏で作成された映像と言語表現の結びつきを歴史的な文脈や媒体の特徴と併せて考察することを目標とする。映像が言語表現と併せて用いられる点に着目し、言語表現との関係で映像を理解する仕組みを考えさせる。もう一つには、映像が言語表現としていわば翻訳され、見るものに理解される仕組みを、様々な例の考察を通して理解することを目標とする。	「英語文学演習 (映像と言語表現)」と交互に開講
	イギリス文学史 I	中世から王政復古期までのイギリス文学の諸相を概観する。初期近代、テューダー朝、エリザベス朝、ジェイムズ朝、内乱期、王政復古期の詩、散文、演劇を取り扱う。それぞれの時代背景を把握し、文学との関係において社会の重要な出来事や思潮について考察した後、個々の詩人、劇作家などの文学史における役割を検討し、各時代の文学的トピックを概説しつつ、重要な文学作品の具体的な読解、鑑賞も行う。	
	イギリス文学史 II	18世紀から20世紀前半までのイギリス文学の諸相を概観する。18世紀の詩、イギリス小説の誕生とその発展、ロマン派の文学、19世紀の小説と散文、19世紀後半の詩と演劇、20世紀前半の小説と演劇を扱う。それぞれの時代背景や社会の重要な出来事、思潮について考察した後、個々の詩人、劇作家、小説家などの文学史における役割を検討し、各時代の文学的トピックを概説しつつ、重要な文学作品の具体的な読解、鑑賞も行う。	
	アメリカ文学史 I	17世紀から南北戦争の終わる1865年あたりまでに書かれた、アメリカ文学の歴史的展開を概観する。この授業ではまず、興味深く重要なテキストをいくつか取り上げ、精読することも求められる。文学上の展開だけでなく、文学作品を検証するために必要な、歴史的、文化的な背景にも触れていく。この授業の目的は、初期アメリカ文学の主な流れをしっかりと理解することができるようになることである。	
	アメリカ文学史 II	南北戦争の終わる1865年頃から現在までに書かれたアメリカ文学の歴史的展開を概観する。この授業ではまず、興味深く重要なテキストをいくつか取り上げ、精読することも求められる。文学上の展開だけでなく、文学作品を検証するために必要な、歴史的、文化的な背景にも触れていく。この授業の目的は、後期アメリカ文学の主な流れをしっかりと理解することができるようになることである。	
	英語文化研究特論 A	本講義においては、イギリスおよびイギリスと結びつきの深い英語圏文学・文化を色々なテーマに即して読むことで、それらがさまざまな時代の多様な領域の英語圏文化においてどのような意味をもっているかを深く学ぶことを目標とする。具体的には、英語圏文化における文学作品、および文化を表象する媒体(映画、新聞、広告など)をいくつか取り上げて読み解き、それらの文化的・社会的意味を考察する。必要に応じて批評理論を用い、作品および文化へのより深い理解を目指す。	
	英語文化研究特論 B	本講義においては、アメリカおよびアメリカと結びつきの深い英語圏文学・文化を色々なテーマに即して読むことで、それらがさまざまな時代の多様な領域の英語圏文化においてどのような意味をもっているかを深く学ぶことを目標とする。具体的には、英語圏文化における文学作品、および文化を表象する媒体(映画、新聞、広告など)をいくつか取り上げて読み解き、それらの文化的・社会的意味を考察する。必要に応じて批評理論を用い、作品および文化へのより深い理解を目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語学 (意味論)	「意味する」ことの意味を問うための授業である。日常的に使われる英語の持つ「意味」はどのように構成されているか、具体的用例の分析を通して、英語の「意味」の成り立ちへの理解を深め、意味論への導入を行うことを目的とする。単語レベルの意味と文レベルの意味、同意・反意・矛盾などの論理の意味、含意・ニュアンスなどのプラスアルファの意味、修辭学的意味、意味変化のメカニズムなど、意味の諸相を論じる。	「英語学演習 (意味論)」と交互に開講
	英語学 (語用論)	言葉は単なる論理体系としてではなく、「人によって使用されるもの」として存在する。「意味」も固定したものではなく、話し手と聞き手の間の相互作用を通してダイナミックに生成されるものである。実際の英語使用の場面で用いられる英語表現は、文字通りの意味とは別に、様々なコミュニケーション上の役割を担っている。英語使用の様々な場面におけるコミュニケーションのメカニズムについて理解を深め、語用論への導入を行うことを目的とする。	「英語学演習 (語用論)」と交互に開講
	英語学 (音韻論)	母音や子音の音声的特質と役割の違い、言語ごとの音の種類や音節構造の違い、言語使用者による音声の認知や識別などの問題を探ることによって、言語における「音声の働き」について、英語の音声を中心に学ぶ。「音素」という概念を理解することが基本となるが、個別音だけでなく、「超分節音素」と言われる強勢やイントネーションの特徴や働きについても、英語を中心に考察する。音韻論には、これまでさまざまな理論や学説が提唱されてきたが、それらの理論的な側面にも一部触れる。	「英語学演習 (音韻論)」と交互に開講
	英語学 (形態・統語論)	主に英語の資料をもとに、単語レベルでの音と意味の結びつき、文レベルでの音と意味の結びつきに関する規則の体系を概観する。主に1980年代以降の先行研究を参照しながら具体的な資料を客観的に分析する手法を学び、考察を加える。英語、日本語、その他の言語の多様な形態・統語現象の中に規則性を発見し、人間の脳に内在する認知能力の一部を成す文生成のメカニズムを探る。	「英語学演習 (形態・統語論)」と交互に開講
	英語学 (社会言語学)	言語と社会の関わりを多角的に考察し、私たちが今日直面する言語問題が何かを理解するとともに、日常生活における言語行動の意味を自覚的に捉える態度を養うことを目的とする。具体的には、英語について、言語使用者(出身地・社会階層・年齢・性別・民族的バックグラウンドなど)と言語使用(レジスターなど)がどのような言語変異を生み出しているかを考察する。社会言語学の基本的な概念を論じ、その観点から英語の諸相を概観するための授業である。	「英語学演習 (社会言語学)」と交互に開講
	英語学 (英語史)	アングロサクソン人のブリテン島渡来を契機とする英語の発祥(古英語)から、その後の変遷(中英語～初期近代英語～現代の英語)と国際語への拡がりに至る過程を辿り、内的・外的要因による様々な変化を概観して、人間言語のひとつとしての英語の通時的な姿を学ぶ。その上で現代英語との関連を考えながら過去の英語の姿を観察し、英語に起きた変化と各時代の社会的・文化的背景との関係を考えることによって、現代英語および言語と社会の関係についての知見を深める。	
	英語指導法	本講義では、英語教授法等をもとに、理論的、かつ、体系的に英語の指導法を整理した上で、多様な指導環境に応じた、より適切な指導法について詳説する。また、技能別の指導法のみでなく、技能を統合した指導法も扱う。さらに、英語授業のDVDの視聴や授業参観を通して、どのような英語の指導法がどのように実践されているかを分析する。これらの学習を踏まえて、目的に応じた英語の指導法を選択して指導案を作成し、模擬授業を実施する等して実践的な英語指導力を養う。	
	児童英語指導法	本講義では、英語教授法等をもとに、理論的、かつ、体系的に児童英語の指導法を整理した上で、多様な指導環境に応じた、より適切な指導法について詳説する。また、技能別の指導法のみでなく、技能を統合した指導法も扱う。さらに、児童英語授業のDVDの視聴や授業参観を通して、どのような児童英語の指導法がどのように実践されているかを分析する。これらの学習を踏まえて、目的に応じた児童英語の指導法を選択して指導案を作成し、模擬授業を実施する等して実践的な児童英語指導力を養う。	
	第二言語習得研究法	第二言語習得は学際的な研究分野であり、それに伴い、研究手法も関連する学問分野により多岐・多様に渡っている。本講義では、まず、そのような第二言語習得のさまざまなデータ収集・分析方法等の研究手法を整理しながら概観する。そこで得た知識をもとに、履修者各自が関心のある研究テーマを選び、研究計画を立て、実際に実験や調査を実施する。さらに、収集したデータを分析したものを研究報告書としてまとめた上で、口頭による研究報告ができる力を養う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	翻訳学特論	「翻訳基礎論」を土台に、より詳しく翻訳を分析するさまざまな方法論について確認する。そのうえで、主として「日英語対照研究」を行う。プロの翻訳者により翻訳された文と原文との比較対照と分析が中心になる。たとえば、言葉がより複層的な意味をもって用いられる文学作品を素材とし、現代日本文学の英語訳や、現代英米文学の日本語訳などを、各原文と比較検討する。翻訳の理論と実践についての本格的な理解と能力を涵養する。	
	通訳学特論	通訳は、高度な母国語能力と外国語能力(英語)、言語の文化的背景を含む幅広い教養などを必要とする専門職である。本講座では、通訳に必要なこれらの能力や教養を身につけるための発展的専門的段階として、その性質や運用方法に関するより実践的な知見と運用方法を習得することを目標とする。また、通訳についての学問的基礎とその広がりに関する基礎的理解をもとに、グローバル化する国際社会における通訳の多様な役割や新たな社会的貢献のあり方について、自律的かつ実践的に考察できる力を養う。	
基盤演習	1 年次演習 (国際英語)	国際英語にかかわるイングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリアの諸分野に共通する学問的研究方法について基礎的な知識やスキルを培い、それぞれの学問分野に取り組むための基盤を養う。具体的には、第一に、文献や資料を正確に理解するとともに、そこから可能な限りの情報を引き出す方法を学ぶこと。第二に、文献や資料を能動的に扱い、その論点を見きわめた上で、自らの見解を適切に構築する力を培うこと。そして第三に、国際英語にかかわる情報への関心を高め、その収集を主体的に行えるようにすること、である。	
	Study Abroad 基礎演習	本演習は、スタディ・アブロードによる勉学を遂行する上で必要となる国際英語に関連した研究課題(英語文学、英語学、英語教育学、Professional English Skillsに関わるもの)の設定のための基礎的な知識とスキルを習得するとともに、その課題を学問的に探究するための方法を実践的に身につけ、あわせて、スタディ・アブロードによる勉学を遂行する上で不可欠な英語による表現能力や語学力の運用方法を養うことを目的とする。また、これらの目的を達成するために、研究課題探究のための主体的積極的な学習姿勢を涵養する。	
	First-Year English Seminar I	この演習は国際英語学科が提供する英語によるライティング・プログラムの最初の授業である。学生は学術論文における多様なパラグラフについて学び、自分でも作成する。その際に、レイアウトや構成を学び、適切な語彙、文法、そして本論にある文章間のつながりの言葉を用いることを習得し、最終的には2~3つのパラグラフで構成されたエッセイを完成させる。また、自分の作文を自分で編集し、修正する方法を学ぶ。授業はすべて英語で行われ、英語によるコミュニケーション能力の養成も目指す。	
	First-Year English Seminar II	この授業では前期の「First-Year English Seminar I」でパラグラフ・ライティングについて学んだことをエッセイ・ライティングに応用する。英語で書かれたテキストの読解に基づくライティングを目指す。論文の主旨を発展させ補強すること、アウトラインを構成すること、効果的な序論と結論を書くことを身につける。文法的にも間違いのないエッセイ作成を特に心がける。最終的には、「序論、複数のパラグラフで成り立つ本論、結論」で構成されたアカデミック・エッセイを作成することを目指す。書く過程でのピアエディティング、書いたものを基にした発表など、英語によるより高度なコミュニケーション能力も養成する。	
	Second-Year English Seminar	この授業は1年次の「First-Year English Seminar I・II」で得たスキルをふまえ、3年次の「Third-Year Research Writing I・II」に繋げるための授業である。国際英語学科の各専門分野のテキストを読んで理解し、論じ、それについて英語で書く力を学生が身につけることができるよう構成されている。テキストを理解し分析する能力を高め、理解した内容について、短い学術的なエッセイ(その際、MLAやAPAの形式に従った引用、主題文を補強する証拠、文献目録を含む)を書く能力を向上させることがこの授業の目標である。	
	Research Project for Study Abroad	本演習は、スタディ・アブロードによる勉学を遂行する上で必要となる国際英語に関連した研究課題(英語文学、英語学、英語教育学、Professional English Skillsに関わるもの)を明確に理解するとともに、その課題にあわせてこれを探究する本格的な学問的手法を身につけ、あわせて、スタディ・アブロードによる勉学を遂行する上で不可欠な英語による表現能力や語学力の運用方法を、海外の大学での実践的状況を想定して養うことを目的とする。各研究課題について、研究の現況や先行研究についても、主体的積極的に情報を収集する力を養う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語音声学	英語独特の音声的特徴の基本的知識を学ぶとともに、英語の発音の仕方を身につけることを目的とする。母音の構成、子音の種類、音節の成り立ち、音のつながり(linking)、語・句・文の各レベルにおける強勢パターン、イントネーション、リズムなどについて、日本語との違いを念頭に置きながら学習する。同時に、CD教材やCALL教室のインタラクティブなトレーニングソフトなどを用いて、英語の発音の実践練習を行い、英語らしい発音の仕方を体得する。	
	英文法	英語の文法について、品詞・用法などについての基礎知識を確認・徹底し、その知識を実践の中で活用できるようになることを目的とする。この目的のために、まず英語の運用には不可欠である文の基本構造や品詞の分類の徹底をはかった上で、使用領域による語法や構文の多様性などを考察し、生きた英語の知識の一部としての英文法を体得する。授業は演習形式で、学生による説明や練習問題訓練を中心に行う。	
	English Studies 入門演習 I	English Studies を英語で発信される文学や文化の研究、および英語という言葉の研究する英語学と位置付け、研究方法について基礎的な知識やスキルを養成し、かつ学問に誠実に向かい合う心構えを、演習形式によって各学生に身につけさせることを目標とする。具体的には、以下の三点に集約される。第一に、テキストを正確に読み解く力を養うこと。第二に、先行研究を調べ、先行研究に対してどのように自己の見解を作り上げてゆくべきかを考えること。そして第三に、他者を説得する論理を、組み立て、表現する方法である。	
	English Studies 入門演習 II (文学)	English Studies の1つの柱である英語で書かれた文学について、「English Studies 入門演習 I」で学んだ基礎を発展させ、様々な文学テキストにおける読解力を身につけ、問題を発見し、論じる力を育成することを目標とする。演習形式によって受講生は、文学テキストから問題点を発見し、論じるために必要なリサーチを行い、議論の組み立てを学習し、レポートに仕上げる方法を実践する。	
	English Studies 入門演習 II (文化)	English Studies の1つの柱である英語を用いて作られた様々な文化テキストについて、「English Studies 入門演習 I」で学んだ基礎を発展させ、文化テキストを読解する力を身につけ、問題を発見し、論じる力を育成することを目標とする。そのためにカルチュラル・スタディーズの理論の基礎も学習する。演習形式によって受講生は、文化テキストから問題点を発見し、論じるために必要なリサーチを行い、議論の組み立てを学習し、レポートに仕上げる方法を実践する。	
	English Studies 入門演習 II (言語)	本演習は、「English Studies 入門演習 I」で学んだ基礎を発展させ、英語という言葉の姿と言語学的な研究方法についての基礎知識を得ることをねらいとする。「世界語」と言われるまでになった英語の現状とその発展の経緯を把握するとともに、音声、語彙、文法、歴史、方言、社会との関係などのテーマごとに学ぶことを通して、英語を多面的に理解すると同時に、それぞれの分野ごとに、どのような問題や研究テーマがあるかを探る。英語概論と英語学入門を兼ねた授業である。	
	英語教育入門演習	本演習では、英語教育に関連する身近な話題を取り上げながら、英語教育の基礎的な知識を習得することを主な目的とする。そのために、学習指導要領や英語教育史、英語教育政策等を通して英語教育の概観を把握する。加えて、英語教授法や英語指導法、第二言語習得等の関連分野の理解を深めることで、英語教育を多角・多面的に捉える。さらに英語教育の実践の現状を体感するために、授業実践のビデオの視聴や授業観察等もする。最後に英語教育のあるべき姿を考察する。	
	児童英語教育入門演習	本演習では、児童英語教育に関連する身近な話題を取り上げながら、児童英語教育の基礎的な知識を習得することを主な目的とする。そのために、さまざまな文献や資料をもとに、児童英語教育の概観を把握する。加えて、英語教授法や児童英語指導法、第二言語習得等の関連分野の理解を深めることで、児童英語教育を多角・多面的に捉える。さらに児童英語教育の実践の現状を体感するために、授業実践のビデオの視聴や授業観察等もする。最後に児童英語教育のあるべき姿を考察する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	第二言語習得入門演習	本演習では、第二言語習得に関連する身近な話題を取り上げながら、第二言語習得の基礎的な知識を習得することを主な目的とする。まず、履修者の外国語学習経験や世間に広まっている俗説を整理して身近にある第二言語習得に関連する事項についての意識を高める。さらに、それらの事項にどのような規則性が見られるか等、第二言語習得の現状を整理、分析、考察した上で、今日に至る第二言語習得の一般的なメカニズムや個人差についての研究成果を詳説する。最後に、第二言語習得の効率化や第二言語教育の改善の方法を理論的に模索する。	
	Classroom English 入門演習	本演習では、場面に応じて英語と日本語を使い分けながら英語の授業を実施する力を養うことを目的とする。そのために、まず教室内の英語のインプットや英語でのコミュニケーションの意義を概説し、英語と日本語をどのように使い分けるかについて理論的に詳説する。これらの知識技能を身につけるため、英語と日本語を使い分けながら実施する英語の授業案を作成して、模擬授業等を実施した後、振り返りとして教室での英語と日本語の使い方についての考察を深める。	
	Professional English 入門演習A	さまざまな英語表現の基礎を実践的に学ぶ演習である。本演習では、出版翻訳、英語広報、ニュース、映画字幕など、活字や文字を媒体として表現される英文の種類とそれぞれの文体的特徴を学ぶとともに、丁寧表現、婉曲表現、慣用句など多様な英語表現にも触れる。教師が一方的に指摘するのではなく、履修者同士によるディスカッションを軸にした相互学習の場とする。	
	Professional English 入門演習B	さまざまな英語表現の基礎を実践的に学ぶ演習である。本演習では、各種通訳、観光ガイド、商品説明など、口頭で表現されるタイプの英文の種類と文体的特徴を学ぶとともに、丁寧表現、婉曲表現、慣用句など多様な英語表現にも触れる。教師が一方的に指摘するのではなく、履修者同士によるディスカッションを軸にした相互学習の場とする。	
	Public Speaking	本科目は、英語によるプレゼンテーションを十分におこなうことのできる知識と総合的な英語運用能力を身につけることを目的とする。英語によるプレゼンテーションには、スピーキングの基礎力が必要となることは言うまでもないが、それとともに、総合的な英語運用能力、特に、聴衆の言語的特徴を知り、スピーキングの内容について英語の諸情報を的確に収集しつつ、それを論理的で説得力のある形で発話するといった総合的な知識とスキルが求められる。本科目ではこれらの知識とスキルについて、実践的な演習を通じて習得する。	
	翻訳入門演習	日英語間の翻訳実習を中心とした演習である。翻訳力の基礎を養うために、多種多様な英文にできるだけ多く触れ、原文が伝達しようとしている内容を正確に読み取る力を養うとともに、読み取った原文の意味を適確な日本語で再現するために、日本語の表現力を養成する。そのためには、相当量の練習を重ねることが基本になる。教師が一方的に添削指導するだけではなく、履修者同士の訳文の比較対照や互いの訳文批正なども行ない、相互学習の場とする。中心となるのは、英語→日本語であるが、時に日本語→英語の翻訳も取り入れる。	
	通訳入門演習	通訳は、高度な母国語能力と外国語能力(英語)、言語の文化的背景を含む幅広い教養などを必要とする専門職である。本演習は、通訳に必要なこれらの能力や教養を身につけるための入門演習として、その性質や運用方法にかかわる基本的な力を初歩的な実践演習を通じて習得することを目標とする。あわせて、グローバル化する国際社会における通訳の多様な役割やニーズ、社会的貢献のあり方について、初歩的な実践演習を通じて理解し、その知見を運用するための基礎を養う。	
	Study Abroad English	本科目は、国際英語学科の必修である海外の教育機関におけるStudy Abroadにおいて、英語力養成にかかわる授業科目を履修し、十分な学修成果をおさめた者に対して、その学修時間に応じて上限10単位を認めるものである。留学先での成績評価や学習報告などにより、十分な成果が認められない場合には、単位を認定しない。Study Abroadを通じて十分な英語力を身につけることにより、国際英語学科での勉学をより実質的なものとし、国内外を問わず、英語を実践的に運用できる力を養成する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Study Abroad Academics	本科目は、国際英語学科の必修である海外の教育機関におけるStudy Abroadにおいて、国際英語学科の学問領域にかかわる授業科目を履修し、十分な学修成果をおさめた者に、その学修時間に応じて、上限16単位を認めるものである。留学先での成績評価や学習報告などにより、成果が認められない場合には単位を認定しない。Study Abroadを通じて学問研究に資する十分な学力を身につけることにより、国際英語学科での勉学をより実質的なものとし、かつ、英語によって培われた専門的知見を国内外において活用する能力が求められる。	
発展演習	時事英語	この演習では、日本国内外の最新のニュースを扱ったさまざまな形式の英文記事を読み、時事英語に特徴的な語彙、文法や文体の基本ルール、段落構成を把握し、習得する。記事で扱われる最新の時事については、そこで用いられる専門用語やその背景に関して自分で調べ理解を深め、さらに、記事にある書き手の価値観や意見を識別することを学ぶ。そして、習得した時事英語の語彙や表現、文章構成方法を実際に用いて、最新時事について自分の意見を英語で発信する。	
	Critical Thinking	この授業では、まず、議論の構造を持つさまざまな文章の構成部分や他の多様な伝達情報の傾向を見極める。また、critical thinkingを通して種々の問題を解決することを学ぶ。その際、議論のなかにあるさまざまな価値基準や先入観を見極め、問題解決のための多様な代替案を比較検討することで、現実的かつより理路整然とした結論を導き出す。この授業では、公共の議論の場の言説におけるさまざまな議論を分析することに、特に焦点をあてる。	
	3年次演習（国際英語）Ⅰ	本演習は、卒業論文研究へ向けた演習の第一段階であり、イングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリアの各分野に分かれ、各分野の学問的考究の枠組みを理解し、研究課題の基本的な設定方法や研究課題に応じた資料や情報の収集の仕方を習得し、卒業論文執筆のための基本的な論理構成力や表現力を養うことを目的とする。あわせて、各分野の研究動向や先行研究の概要についても理解し、卒業研究のための勉学を主体的に進めるための学習態度を涵養する。	
	3年次演習（国際英語）Ⅱ	本演習は、卒業論文研究へ向けた演習の第二段階であり、イングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリアの各分野に分かれ、各分野の学問的考究の枠組みへの理解を深め、研究課題を具体的に設定し、その研究課題に応じた資料や情報の収集力、卒業論文執筆のための論理構成力や表現力を高めることを目的とする。あわせて、各分野の研究動向や先行研究についても、自らの研究課題にあわせて的確に理解し、卒業研究のための勉学を自律的に進めることができる力を涵養する。	
	Third-Year Research Writing I	この授業は、2年次に学んだエッセイ・ライティングのスキルをふまえ、さらに発展させた内容になっている。学術的なエッセイを書く能力をさらに向上させることが到達目標であり、従って授業の多くはエッセイのテーマについてのリサーチ方法の習得や、各専門分野から選んだテーマについてより長文のエッセイを書き、それを自分で編集し修正することに費やされる。数回課せられる長文エッセイも、授業内でのアクティビティも、より高度な内容を求められている。	
	Third-Year Research Writing II	この授業は「Third-Year Research Writing I」の内容をふまえ、さらに発展させた内容になっている。4年次の卒業論文執筆に備えて、研究論文を書く力をさらに伸ばすことが到達目標となっている。従って授業時間の多くはエッセイのテーマについてのリサーチ方法の習熟や、各専門分野から選んだテーマについてより長文かつ洗練されたエッセイを書き、それを自分で編集し修正することに費やされる。数回課せられる長文エッセイも、授業内でのアクティビティも、より高度な内容を求められている。	
	英語文学演習（演劇）	英語表現の一ジャンルとしての演劇の特徴を理解した上で、本演習では、イギリス、アメリカおよびイギリスやアメリカと関係の深い英語圏文化を中心に、代表的な戯曲をいくつか取り上げ、英語で精読する。戯曲と実際の上演の関係を考慮しながら、科白やト書きの解釈の仕方や、ポーズのとり方の考察なども含め、演劇作品の読解に必要な知識を習得させる。さらに、できるだけ舞台上演のビデオも見せながら、英語で書かれた演劇の文学的・文化的・社会的意味を考察させる。	「英語文学（演劇）」と交互に開講

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語文学演習 (小説)	この授業では英語圏の国々において書かれた小説作品の読解を対象とする、演習形式の授業である。テキストを綿密に読み進めつつ、学生からのアクティブな参加と教師からのフィードバックに基づく活発な議論を前提として、人間社会の歴史的推移、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティなど種々の視点から作品の分析と解釈を試み、個々の作品のみならず、その作品を成立させた大きな文化的・歴史的コンテキストのより深い理解を得ることを目的とする。	「英語文学 (小説)」と交互に開講
	英語文学演習 (詩)	英米のみならずその他の国も含め、英語で書かれた詩の作品をとりあげて、その緻密な分析と解読を試みる演習形式の授業である。詩的言語で表現される詩人の発見ともいべき新鮮な認識を読み取るために、詩の構成要素である主題、イメージや象徴などの比喩、構造、リズムや詩の調子などに注意を払いながら詩の解読を試み、発表することが求められる。その後発表にもとづく討論があり、詩人が追求している詩的言語の可能性を、追体験することにより詩の本質を学ぶ。	「英語文学 (詩)」と交互に開講
	英語文学演習 (児童文学)	人間・社会・世界に目を開かせ、自己確認と自己確立を促し、楽しませつつ深く考えさせるという児童文学の本質を、具体的な作品の原書を講読することで理解を深める演習である。英語圏児童文学を主たる題材とし、リアリズムやファンタジー等の種々のサブジャンル、幼年向けからヤングアダルトまでの読者対象など、できるだけ多様な作品を選んで読み解く。作品や作家の背景についても合わせて学ぶ。各自が原書を読み進めるだけではなく、グループでのディスカッションやレジュメを作ったの口頭発表など、ピアラーニングも取り入れる。	「英語文学 (児童文学)」と交互に開講
	英語文学演習 (比較文学)	比較文学の理論や方法に関するテキストを読み、理解することが本演習でまず求められる。その上で、英語圏、および英語圏の文学テキストとの関係で、その中のいくつかの理論や方法にスポットを当て、実際のテキストを題材に議論を通して比較する方法を学んでいく。あるテキストと別のテキストの影響関係を実証的に研究する方法や、国や地域といった文化的コンテキストの異なるテキストを対比する方法、文化的コンテキストの異なる文学の受容を研究する方法などを実際のテキストを題材に、議論を通して実践していく。	「英語文学 (比較文学)」と交互に開講
	英語文学演習 (映像と言語表現)	映像とは映画、テレビ、写真などの画像であるが、映像は映像のみで完結することは少なく、言語表現を伴うものが大半である。本演習では、一つには英語圏で作成された映像と言語表現の結びつきを歴史的な文脈や媒体の特徴と併せて考察し、議論することを目標とする。また、映像が言語表現と併せて用いられる点に着目し、言語表現との関係で映像を理解するだけでなく、映像が言語表現として翻訳され、見るものに理解される仕組みを、様々な例に関して議論し、理解を深めることを目標とする。	「英語文学 (映像と言語表現)」と交互に開講
	英語学演習 (意味論)	本演習は、意味論の諸理論からのアプローチにより、具体的な英語使用の場で、どのように「意味」が成り立っているかを考察し、理解を深めることを目的とする。実際の英語使用における「意味」の諸相を観察し、分析する。さらに、例えば、文学、意味論の応用としての辞書、言語間で意味をやり取りする通訳・翻訳などを含めた様々なジャンルにおける「意味」を多角的に論じる。各自の発表形式で授業を進め、資料収集、文献検索、データ分析の方法などを習得させる。	「英語学 (意味論)」と交互に開講
	英語学演習 (語用論)	本演習は、発話行為論、ポライトネス理論、含意のメカニズムに関する理論、会話分析、談話分析、二言語間の語用論など、語用論の諸理論からのアプローチにより、具体的な英語使用の場で、どのように英語が発話されているかを多角的に考察し、理解を深めることを目的とする。あわせて英語教育への応用の仕方についても論じる。各自の発表形式で授業を進め、資料収集、文献検索、データ分析の方法などを習得させる。	「英語学 (語用論)」と交互に開講
	英語学演習 (音韻論)	母音や子音の音声的特質と役割の違い、言語ごとの音の種類や音節構造の違い、言語使用者による音声の認知や識別などの問題を探ることによって、言語における「音声の働き」について学ぶ。「音素」という概念の理解を深めることが中心となるが、個別音だけでなく、「超分節音素」と言われる強勢やイントネーションの特徴や働きについても考察する。音韻論には、これまでさまざまな理論や学説が提唱されてきたが、それらの理論的な側面にも触れる。	「英語学 (音韻論)」と交互に開講

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語学演習 (形態・統語論)	主に1980年代以降の英語で書かれた先行研究を参照しながら、形態・統語論に関わる具体的な資料を客観的に分析し、考察を加える。英語、日本語、その他の言語の多様な形態・統語現象の中に規則性を発見し、人間の脳に内在する認知能力の一部を成す文生成のメカニズムを探る。一見互いに異なる構造の間に見られる一般性、および言語間の共通性と差異についての手がかりを確かめていく過程を経験することによって、言語を見る眼を養うとともに、資料を分析する能力、議論を組み立てる能力を強化し、自然界の一部であり自らのこころの一部でもある「人間の言語能力」に迫ろうとする人間の知的営みを体験する。	「英語学 (形態・統語論)」と交互に開講
	英語学演習 (社会言語学)	本演習は、英語の言語使用者(出身地・社会階層・年齢・性別・民族的バックグラウンドなど)と言語使用(レジスターなど)に関わる社会的変異の諸相を、多角的かつ具体的に考察することを目的とする。一次資料および代表的論文を読み、社会言語学の諸理論を用いて、自らが選んだ英語にかかわる社会的変異を観察し、分析する。各自の発表形式で授業を進め、資料収集、文献検索、データ分析の方法などを習得させる。	「英語学 (社会言語学)」と交互に開講
	児童英語教育演習	さまざまな場面での児童英語の指導法についての理解を高めて、技能別の指導法のみでなく、技能を統合した児童向けの指導法を理解する。また、英語授業のDVDの視聴や授業参観をして、批判的に英語の指導法を分析する。さらに、目的に応じた英語の指導法を選択した上で授業案を作成する。それをもとに模擬授業を実施する等して実践的な英語指導力を向上させるのみでなく、自分の授業を振り返り、内省して、改善策を提示する等して自律した教師を目指す。	
	第二言語習得演習	本演習では、第二言語習得研究の中の特定の分野をひとつ、もしくは、複数取り上げて、その分野の研究論文を学術的に作成・発表する力を養うことを主な目的とする。そのために、まず、取り上げられた分野のデータ収集・分析方法等の研究手法を整理しながらまとめて、その研究手法を用いた研究計画案を立て、その案に沿って実際に実験や調査を実施してもらう。そこで収集されたデータを分析し、分析結果を考察して研究報告書を作成し、さらに、その報告書の内容を口頭で発表する力を育成する。	
	Classroom English 演習	本演習は英語の授業を英語のみで実施する力を養うことを主な目的とする。そのために、まず内容重視教授法や内容言語統合型学習等のように、英語のみで授業をする教授法の意義やその指導法、教室で使用する英語表現等について理論的かつ実践的に詳説する。また、授業のビデオの視聴や公開授業の参観等を通して、このような手法での英語の授業の理解を深める。さらに、実際に指導案を作成して模擬授業を実施した後、その内容についてグループでディスカッションする等して、英語のみで実施する英語の授業について考察を深める。	
	翻訳演習 A	日本語と英語の間の翻訳実習を中心とした演習である。「翻訳入門演習」を土台として、Aでは、文芸作品の翻訳実習を行なう。一般・児童など読者対象を限定せず、文芸作品(ノンフィクションも含む)の表現形式の多様性とその意味を明確に理解し、それを訳出する練習を行なう。教師が一方的に添削指導するだけではなく、履修者同士の訳文の比較対照や互いの訳文修正なども行い、相互学習の場とする。中心となるのは、英語から日本語へ、であるが、時に日本語から英語へ、の翻訳も取り入れる。	
	翻訳演習 B	日英語間の翻訳実習を中心とした演習である。「翻訳入門演習」を土台として、Bでは、実務文書の翻訳実習を行なう。様々な分野にわたる実務文書に用いられる英文のヴァリエティを知り、それを訳出する練習を行なう。教師が一方的に添削指導するだけではなく、履修者同士の訳文の比較対照や互いの訳文修正なども行い、相互学習の場とする。中心となるのは、英語→日本語であるが、時に日本語→英語の翻訳も取り入れる。	
	通訳演習 A	通訳は、高度な母国語能力と外国語能力(英語)、言語の文化的背景を含む幅広い教養などを必要とする専門職である。本演習は、通訳に必要なこれらの能力や教養を身につけることを目的とする発展的実践的演習である。あわせて、グローバル化する国際社会における通訳の多様な役割やニーズ、社会的貢献のあり方についても理解を深め、その知見を通訳に生かすための運用能力を養う。「通訳演習 A」では、主に、英語の聞き取り訓練や英日・日英の逐次通訳を中心に扱う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	通訳演習 B	通訳は、高度な母国語能力と外国語能力(英語)、言語の文化的背景を含む幅広い教養などを必要とする専門職である。本演習は、通訳に必要なこれらの能力や教養を身につけることを目的とする発展的実践的演習である。あわせて、グローバル化する国際社会における通訳の多様な役割やニーズ、社会的貢献のあり方についても理解を深め、その知見を通訳に生かすための運用能力を養う。「通訳演習 B」では、主に、異文化間コミュニケーションやアイデンティティの問題について実践的に対応できる力を養う。	
	Professional English 演習 A	さまざまな英語表現の基礎を実践的に学ぶ演習である。「Professional English入門 A」では、出版翻訳、英語広報、ニュース、映画字幕など、活字や文字を媒体として表現される英文の種類とそれぞれの文体的特徴を学ぶとともに、丁寧表現、婉曲表現、慣用句など多様な英語表現にも触れる。教師が一方的に指摘するのではなく、履修者同士によるディスカッションを軸にした相互学習の場とする。	
	Professional English 演習 B	さまざまな英語表現の基礎を実践的に学ぶ演習である。「Professional English入門 B」では、各種通訳、観光ガイド、商品説明など、口頭で表現されるタイプの英文の種類と文体的特徴を学ぶとともに、丁寧表現、婉曲表現、慣用句など多様な英語表現にも触れる。教師が一方的に指摘するのではなく、履修者同士によるディスカッションを軸にした相互学習の場とする。	
	4 年次演習 (国際英語) I	本演習は、卒業研究を進めるための発展的・実践的能力を習得するための4年次生必修の演習であり、3年次演習で身につけた知見と能力を伸ばし、卒業研究の成果をまとめるにふさわしい実力を涵養することを目的とする。演習は、イングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリアの各分野に分かれ、それぞれの専門分野における重要な文献資料等を綿密に考察するとともに研究成果を適切にまとめるための論理構成力や表現力を養い、卒業研究を自律的に進めるための力を養う。	
	4 年次演習 (国際英語) II	本演習は、卒業研究を進めるための実践的能力を伸ばし、学生自らの卒業研究を十分な学問的成果としてまとめるための力を養う4年次生必修の最も発展的な演習である。演習は、イングリッシュ・スタディーズ、英語教育、英語キャリアの各分野に分かれ、それぞれの専門分野における重要な文献資料等の綿密な考察や、これまでに培った研究成果を適切にまとめるための論理構成力や表現力をもとに、学問的社会的に意味のある卒業研究を仕上げるために必要な能力を養う。	
卒業論文	卒業論文	学生が自らの知的関心に沿って研究テーマを設定し、先行研究や各種資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって仮説を実証し、得られた結論を説得的に表現する、という一連の学問的営みを通じて、学士課程での集大成として論文を英語で執筆する。3年次演習や4年次演習を通じて得られた、各学問分野で必要となる知見や方法論を十分に生かしつつ、各担当教員が個別に指導をおこなう。提出された卒業論文は、複数の教員から成る主査・副査体制により、口述試問を実施した上で審査をする。	
	Final Presentation	学生が自らの知的関心に沿って研究テーマを設定し、先行研究や各種資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって仮説を実証し、得られた結論を説得的に表現する、という一連の学問的営みを通じて、学士課程の集大成として成果をまとめる。3年次演習や4年次演習を通じ、各担当教員による個別の指導を得て研究成果を、英語による主論文および副論文(研究内容に即した成果物)としてまとめ、この主論文と副論文をもとに英語によるFinal Presentationを実施し、複数の教員から成る主査・副査体制で審査をする。	
総合教養科目	(女性の生きる力)		
	女性学・ジェンダーを学ぶ	近代化を推進してきた男性中心のパラダイムや価値観を、ジェンダーの視点から問い直した「女性学」。その成立の過程や基本概念について学びながら、体系的な理論構造を明らかにする。またそのなかで、女性学が提示した「ジェンダー」(社会的・文化的性差)の概念を軸として、性別を問わず個人としての尊厳が重んじられる男女共同参画社会のあり方について、男性学にも留意しながら考察していく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性とジェンダーの歴史	女性とジェンダーの歴史をとおして、これまで女性社会の中でどのような位置を占めていたかを、日本を含む世界的な視野から把握する。とりわけ、現在までの歴史を通じた女性の変化を、教育・労働・政治・生活・文化等の側面から考察していく。また、女性表象を考える意味で、ヴィジュアルな資料も積極的に利用する。さらに「ジェンダー」の視点を導入しながら、既存の歴史全体をとらえ直し、女性をめぐるさまざまな問題事象について考えていく。	
	キャリアデザインを描く	人生においてどのようなキャリアを築くかは、ライフコースの選択と密接にかかわり、またライフコースの選択はジェンダーと直結している。個人のなかでキャリアとジェンダーは不可分であり、いずれかだけを考えて生きていくことはできない。この授業では、改正男女雇用機会均等法施行後の女性労働の現状、高学歴女性の職業意識やキャリアパターン、企業における女性のキャリア形成、仕事と家庭の両立支援などの問題をとりあげ、女性が生涯にわたって発展的なキャリアをたどるためのシナリオを考える。	
	政治とジェンダー	少子高齢社会における子育て支援、高齢者介護、障害者の自立支援をはじめとして、人々の共同性や共生にかかわる問題がクローズアップされるなか、女性の政治参加は重要な問題となっている。地域政治、国内政治、国際政治の各レベルにおいて、社会貢献をめざすNPOや市民グループといったテーマ・コミュニティが活性化するなど、政治コミュニティのあり方も多様化しつつある。人間性を回復し、自律型の社会をつくる政治参加の基盤形成を念頭におき、従来の固定的な性別役割分担を超えた市民の役割、ガバナンスやアドボカシーなどについてジェンダーの視点から多角的に考察していく。	
	国際協力とジェンダー	国際協力とはさまざまなアクターが交錯する試行錯誤のプロセスである。例えば、初期の開発援助は現地の社会構造(階級・階層、ジェンダー、エスニシティ)に踏み込もうとしなかった。この授業では、経済開発や紛争及び紛争後の平和構築・復興開発の過程で発生するジェンダーによる差別、格差、暴力の実態を明らかにしながら、それら「直接的暴力」及び「構造的暴力」と格闘する人々の存在を知り、そうした人々と共に歩む国際協力のあり方を考える。	
	国際社会と女性の人権	世界の女性を取り巻く問題とそれに対する国際社会および国際法による取組みについて学ぶ。また、それらをジェンダーの視点から分析することにより、私たちの目から見えにくくなっている問題の根源を探る。具体的には国家主権、人権、開発、環境などの争点において、国内社会ほどには制度化が進んでいない国際社会の実情を理解し、国際社会における法の役割を学ぶと同時に、世界では女性の直面する問題が、どのように女性の人権とかかわっているかについて理解する。	
	現代の家族とジェンダー	家族という人間の営み、家族関係にまつわる心理は社会・文化的に規定されるものである。夫婦関係や親子関係など、現代家族の人間関係の中で人が何を感じながら生きているのか、ジェンダーを切り口として概観することによって、人間にとって家族とはどのような意味をもつのか、現代の社会に適応的な家族の姿とはどのようなものかを考えていく。授業の内容を自分自身の経験や将来展望に照らしながら、自らの家族体験を相対化する視点を獲得してほしい。	
	女性のウェルビーイング	現代社会の急激な変化によって、人々は生涯にわたって様々なストレスに晒される。この講義では、女性がストレスにどう対処し、それをどう成長の糧にするかについて、精神保健学の観点から学習する。人の誕生から死に至るまでのライフサイクルにおいて、節目節目で遭遇する精神医学的・心理的・社会的課題についてジェンダーの視点から概観し、それらを乗り越える知恵や経験やスキルを精神保健学から学び、この学習がその人らしいライフサイクルを送るための契機になるような講義を行う。	
	女性と福祉	現代女性がライフステージの各段階で直面する福祉関連の問題を抽出し、その解決のために必要となる制度や支援のありようを考える。児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、あるいは失業や生活保護といった主要な福祉の問題に対峙するときに現在どのような解決の経路があるのか。どのような困難や制約と女性は向かい合うことになるのか。あるいは支援者の立場から、福祉の問題と関わるとき、どのような知識が必要なのか。これらについて具体的な問題を例として取り上げ、考察する。これまでの「福祉の女性化」をジェンダーの視点から批判的に問い直し、ケアや仕事をめぐる諸個人の幸福追求にとって、ジェンダーの主流化(ないし男女協業)が重要であることを理解する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性と表現	文芸や音楽、絵画、映像、舞踊、演劇さらに服飾、建築、空間デザインなどさまざまな分野において女性の進出が拡大し、表現者として活躍している。しかし、いまだ職名に女流・女性という文言が付されることも珍しくなく、芸術表現の歴史に女性の名を見ることはごくまれであるように、芸術表現にもジェンダーの問題が潜んでいる。現代の社会・文化を生きる者としての問いやメッセージをさまざまな形で表現する女性たちの活動に着目し、芸術表現生成の社会的・心理的背景など多様な表現に織り込まれた「ジェンダー」の諸相について、考察していく。	
	総合教養演習 (女性の生きる力)	総合教養科目「女性の生きる力」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「女性の生きる力」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	
<b>(人間と自然科学)</b>			
	自然科学のあゆみ	古代から近代に至るまでの自然科学の歩みを辿る。古代ギリシャの科学者や哲学者の自然界の捉え方から始まり、中世に於ける神秘的な科学や、西洋と東洋の自然観の比較などをとりあげる。近代に入り、ルネッサンス時期に育成された自然現象と科学と芸術の調和的な考え方に注目する。また、19世紀に活躍した女性科学者達の生涯について、その苦悩と功績や、人生観を紹介する。全体を通じて、科学者達の人間像を浮き彫りにしながら、自然現象とそれを理解しようとする人間の姿勢について解き明かしてゆく。	
	現代の科学と技術	20世紀の科学と技術の発展を顧み、21世紀に人類が進むべき方向について考える。科学と技術を土台とする経済・社会システムの姿を見つめ直し、真に心ゆたかな人間生活と、健全な自然環境の持続について議論する。人間による科学の追究とは何か、技術がもたらす効用とは何かを問う。また、医薬品や化粧品などに代表される人工的物質、利便性を追求するハードウェア、そして地球環境問題の原因と対策などについて、それらに関する最新の科学的発見や新技術を紹介しながら、人類社会と自然界の将来を展望する。	
	暮らしの中の物質	人間生活の全てに関係するさまざまな物質の正体と、それらの意義や影響について理解を深め、これからの物質社会を考える。文明の歴史は新物質の発見、発明とその利用である。次々と新しい機能をもつ物質から造られる製品が開発されて、経済と社会を動かす状況や、日常生活への影響を把握する。食料、衛生、医療、自動車、航空、建物、家電品、パソコン、携帯電話、服飾、化粧品などに使われている物質について科学的に理解する。また、環境・エネルギー問題と物質リサイクル、天然物や再生可能な物質の利用などの新しい流れも視野に入れながら、21世紀の人類社会の姿を考える。	
	エネルギーと人類	エネルギーに関する諸問題を解決することは、人類につきつけられた最も重要な課題のひとつである。この問題の本質的解決は、技術革新や政策よりも、人類としての価値観の問題・生き方の選択の問題が鍵を握っていると言える。エネルギー資源に関する各論のみならず、地球史、人類史を辿る中で、人間社会のあるべき姿を模索することを目指す。更には、余裕があれば宇宙における暗黒エネルギーといった壮大な話題にも目を向けたい。	
	宇宙の科学	太陽は中心部の核融合反応によって輝き、それが地上のエネルギーの起源であることを紹介する。また、我々の属する太陽系の概観と、その形成のシナリオ、太陽の様な恒星(星)の進化とその最期に起きる超新星爆発やその結果生まれるブラックホール、等について解説する。更に、最新の宇宙論であるビッグバン宇宙論とそれを支持する観測事実、余裕があれば宇宙論において素粒子理論のはたす重要な役割についても解説する。	
	地球の科学	太陽系の一惑星である地球を大気圏・水圏・地圏・生物圏からなる地球システムとして捉え、その概要を解説する。また、地球惑星と生命の共進化を中心に地球の自然環境を統合的な観点から概観し、人間活動に伴う地球環境を巡る諸問題について自ら考えるための基礎を講述する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地球環境の科学	生活環境から地球環境に至る問題の多くは化学的現象が背景にあることから、環境問題を化学的視点から理解し、21世紀に人類がとるべき行動を考える。環境問題は、地域公害の時代から、地球規模に拡大した。その対策は、様々な分野の視点から議論がなされ、一人ひとりが問題意識をもって行動することを必要としている。この授業では、環境問題を幅広くとりあげ、例えば二酸化炭素増加による温暖化、オゾン層破壊による紫外線被害、酸性雨、大都市大気汚染などの現象の因果関係を科学的にわかりやすく説明し、対応策や規制について検討する。そして、持続性と発展性のある経済と社会を、健全な環境を維持しながら実現するにはどうしたらよいかを議論し、人類が進むべき方向について考える。	
	自然環境と人間社会	さまざまな地球規模の環境問題の現状、それらが生じる社会経済的背景、問題解決のための対策や課題について、生態学的視点から学び理解することを目標とする。地球環境の概要、人口増加、食糧問題、資源利用量やエネルギー消費量の増加、地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、海洋とその汚染、熱帯林の減少、生物多様性の減少、砂漠化、水資源の枯渇、これらの問題を解決するための国内的・国際的取り組み、今後に向けての課題などについて概要を解説する。	
	生物と環境	動植物の分類、分布、生態、それらにみられる特徴と環境との関係について概要を学び理解することを目標とする。動植物の分類と類縁関係、日本および世界の動植物相や植生の分布の特徴、分布を決める要因や成立プロセス、動植物の生活にみられる多様性と規則性、それらにかかわる生態学的要因や進化的な背景などについて解説する。	
	生命と医療の科学	生命体を構成する物質である原子や分子によって起こる生命現象の仕組みを、私達の日常生活に結びつけながら理解する。特に、人間の生命を維持するために必要な遺伝子やエネルギー源となる化学物質とはどのようなもので、体内でどのように機能しているか、脳の機能との関わりはどうかなどについて、わかりやすく説明する。更に、病気や不健康状態について、体内で起こる現象を分子レベルで理解を深めながら、それらの対策としての医療と医薬品がもたらす役割について学ぶ。全体を通じて、最新の生命科学と医療科学を紹介しながら授業を展開する。	
	人類の誕生と進化	進化の産物としての自分を知ることが目標とする。自然人類学は、生物としてのヒトがたどってきた進化の道程を明らかにし、ヒトが進化の産物であるために有する特徴を理解することを目的としている。ヒトの形成には、遺伝的な変化による「遺伝」進化のほか、文化的な変化による「文化」進化が大きく寄与している。これらの進化の原理について、具体的な事例を踏まえながら解説する。あわせて、われわれが日常的に行っている社会行動についても進化の観点からとりあげる。	
	脳の科学	ヒトを中心に、脳神経系のしくみとはたらきの基礎について、神経生物学の観点から理解することを目標とする。脳神経系の構成(中枢神経と末梢神経)、脳神経系の細胞の種類や情報伝達のしくみ、脳神経系の機能(感覚、とくに視覚、運動、体内環境の維持、記憶と学習、情動、思考と意識など)、左右脳の機能差と言語、脳神経系の生涯発達と進化、脳神経系に対する薬物の作用、神経生物学の研究手法と歴史、神経生物学の関連分野などについて解説する。	
	遺伝の科学	遺伝のしくみの基本を学び、なぜ女性と男性が半数ずついるのか、結婚したら遺伝病の子どもが生まれることはないのか、自分のクローン人間は自分と同じかなど、遺伝現象に関して日常的な疑問が理解できるようになることを目標とする。遺伝の基本(メンデル遺伝と非メンデル性遺伝)、細胞と染色体(細胞、細胞分裂と染色体の動き、染色体における遺伝子の配列)、ヒトの遺伝(通常形質の遺伝、遺伝病の遺伝、集団遺伝学からみた遺伝病の可能性)などについて解説する。	
	数学の世界	この授業では、数学の様々な姿にふれることが目標である。算数、数学は、小学校、中学、高校、大学で、多くの人が学ぶ最も重要で基本的な科目のひとつである。数学は自然現象や社会現象を科学的に考察し、理解する上で基本的な役割を担っている。数学の持つ論理の美しさは一度経験するとけっして忘れられるものではないのだが、数学は忌み嫌われることも多い。数学の一面のみを見ている結果と考えられる。今までに習った計算主体の数学ではなく、論理など数学の持つ様々な面に着目し、いろいろな方面から数学の姿を紹介していく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報の数学	普段何気なく使っているコンピュータにはいろいろな数学の理論が使われている。メールやインターネットを使うだけでなく、背景にある理論や仕組みを知ることにより、より深くコンピュータを理解し、数学およびコンピュータの面白さを知ってもらうことがこの授業の目標である。コンピュータを使って情報を送ったり、画像処理をしたりといった操作にはどんな数学の理論が使われているのか、論理、回路、暗号、符号、ネットワーク、フラクタル、CGなどの中からいくつか話題を取り上げ、文系の学生にも分かり易く紹介する。	
	代数と幾何の基礎	高校で学んだ、平面や空間のベクトルを用いた図形の取り扱い方を発展させた考え方が「線形代数学」であり、この思考法は関連する計算技術とともに、自然科学および社会科学において広く用いられている。この思考法の具体的な表現形式である「数ベクトル空間」や「行列」を中心に、線形代数学の基本的な概念と計算技術について、予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	代数と幾何の考え方とその応用	高校で学んだ、平面や空間のベクトルを用いた図形の取り扱い方を発展させた考え方が「線形代数学」であり、この思考法に基づく計算技術は、様々なデータの取り扱いや全体的傾向の分析をはじめ、自然・社会科学的現象の分析に広く活用されている。この「線形代数学」の計算的側面について、様々な応用例に触れつつ、距離を備えた「ベクトル空間」における基本的な計算技術の習得を中心に学ぶ。	
	微分と積分の基礎	微分と積分は、物体の運動と接線や面積などの図形問題を統一的に扱うために17世紀に体系化された数学の手法であり、当初から科学技術の基礎としての役割を担ってきた。この講義では、微分と積分の意味を理解して基本的な計算法に習熟し、具体的な問題に適用できるようになることを目標として、微分と積分の基本事項について解説する。特に、その発見が微分積分学成立の契機となった微分と積分の関係(微分積分学の基本定理)を理解することに重点を置く。予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	微分と積分の考え方とその応用	自然や社会の現象に現れる平衡状態の記述や様々の最大最小問題などが、微分と積分の概念を用いて表現できることを学ぶ。1変数と多変数の微分と積分の基本的な計算法を修得し、具体的な問題に適用できるようになる。微分や積分を含む方程式の意味と簡単な場合の解法を理解する。	
	確率統計の基礎	自然や社会における様々な現象から抽出されたデータを分析する際に必要不可欠なのが統計の考え方である。まず、統計学の基礎となる確率の概念を理解することから始め、確率分布、条件付き確率、独立確率変数の和の分布、大数の法則、中心極限定理などの確率の理論の概要を学ぶ。次に、推定や仮説検定などの統計学の基本的な手法と、それらの応用について学ぶ。予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	総合教養演習 (人間と自然科学)	総合教養科目「人間と自然科学」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「人間と自然科学」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	
<b>(人間自身を知る)</b>			
	こころの科学	大学に入り、初めて学ぶことになる心理学という学問への道案内をする。心理学ではどのように人の心を研究しているのかを理解するため、さまざまな心理学の領域における重要な研究を紹介しつつ、心理学の実証的研究の方法、こころに対する科学的なアプローチについても解説する。幅広い心理学の領域を網羅し、その知見を学習することよりも、心理学という学問の特徴の理解に重点をおいた講義を展開する。できるだけ身近な現象の理解に役立つようなテーマを取り上げる。	
	こころと社会	「社会的動物」と言われる人のこころを社会心理学の観点から解説する。人と人が関わる場面での人のこころの働きや、他者から受けるさまざまな形での影響、またさらには個々人の行動の帰結として生じるマクロな現象まで幅広い領域を取り上げる。網羅的に基礎的知見を学習することよりも、いくつかのテーマに絞って人のこころと社会との相互構成的な関係を探る。また、経済学、政治学、社会学などとの関連領域、応用的テーマについてとりあげることもある。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	こどものこころ	人のこころの発達を扱う発達心理学の中でも、特に乳幼児・児童期・青年期を中心に、人のこころの発達過程をとりあげる。発達のメカニズムおよび発達を支える社会・文化的要因も含めて検討する。対人関係の発達、自己の発達、情動発達などの社会性の発達の側面と知覚の発達、言語発達、コミュニケーションの発達などの認知発達の側面の両方を扱う。こころの発達過程に関わる基礎的知識を取り上げるだけでなく、できるだけ新たな知見を取り入れて紹介する。	
	こころの健康	本講義では、こころの健康を理解するために、こころの健康に対立するこころの病理を取り上げて解説する。具体的には主な精神疾患をとりあげ、症状、診断、治療に関する基礎的理解を目指す。こころの病理について学ぶことで、健康なこころが持つ特性、あるいはこころの健康を維持する上での問題などを探る。	
	こころの進化	人間や動物の行動をより良く理解するためには、進化と適応という観点から他の動物とヒトの行動の特性を比較することが有用である。この授業では、人間を「ヒト」という生物の一種として位置づけ、その特徴を進化的枠組みの中で理解することを目的とし、人間のこころを進化と適応の観点から考える。また、比較心理学や進化心理学、あるいは比較認知科学といった関連領域の知見も交えて講義を行う。	
	思考と論理	論理学の本質と基礎的テクニックについて平易に説明する。論理を人間の思考に課せられた普遍的・絶対的な枠組みとして捉えるのではなく、世界標準となったヨーロッパの推理想法として捉え、その意味と具体的内容を概観する。証明のテクニックの説明は最小限に抑え、論理的な考え方の初歩のマスターを目指す。合理的思考法とは、どのようなものであるかを理解できるようにする。	
	科学技術と倫理	科学技術の発達によって、人間の生活は大きく変わりつつある。一方では生活の利便さが追求され、その恩恵は十分に受けてきたが、同時にそこからもたらされるさまざまな不都合をも引き受けざるを得なくなっている。こうした科学技術の功罪両面について、現代の状況を冷静に見つめ、このような事態に至った歴史的思想的背景を掘り下げ、個別分野における実態を参照しながら、今後どのような方向性を探ることが可能かを多角的に考える。	
	現代人の哲学	哲学は、ものごとを徹底的に問いただす学問である。ふだん当たり前と思っていることを、その根拠へ向けて深く問い直すと、自明だと思っていた知識は崩れ、不思議さが思いがけず現れてくる。そこからさらに問い続ける姿勢が哲学の基本となる。これまでの哲学の歴史を振り返りながら、現代においてどのような思索が求められているのか、いくつかのトピックを題材にしながらかえる。大切なのは、知識を単に学ぶことではなく、自ら考えることで問いかける姿勢を身につけることである。	
	西洋の哲学のあゆみ	古代ギリシア時代から現代に至るまでの西洋の哲学・思想のあゆみを学ぶ。西洋の哲学は、科学や宗教との関わりの中でさまざまな変貌を遂げてきた。そして時には緩やかに時には劇的に変化しながら、時代の特徴を表してもいる。この流れを大づかみに理解しながら、何人かの哲学者あるいは学派の考え方に分け入って、その思考法の特徴を理解する。これを通じて、現在のわれわれにとってどのような思考法が大切かを考える機会にする。	
	東洋の哲学のあゆみ	日本を含めた東洋の思想の流れを理解する。インド、中国、日本は、それぞれ、仏教、儒教・道教、神道などの思想を源流に持ちつつも互いの影響や外来の思想との交流を通じて、歴史の中でさまざまな姿をとってきた。その大きな流れを概括的に捉えつつ、その中からいくつかのトピックを取り上げて、東洋的思考法の特徴を明らかにし、それを通して、われわれの日常生活への活かし方や現代人の心のあり方についても考えるきっかけを提供する。	
	比較思想	人間の思想は、さまざまな文化的・歴史的背景を持ちつつ、相互に影響しあっている。それは個人のレベルにおいても、人間の多様な集団のレベルにおいても、共通しているといえる。その人間の思想の種々の側面を、他者との比較のなかで追究していくことを課題とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学	宗教学の視点と方法、および宗教に対する思索の歴史など、宗教学の基礎的知識を学び、さらに現代の宗教を学問的に理解する方法と視点を修得することを目的とする。「宗教とは何か」という問題を考えるために、まず対象となる「宗教」をめぐる過去にどのような思索が試みられてきたのか検討し、「宗教」を捉えるための諸々の方法を紹介し、その上で“今”・“ここ”にいる私たちに「宗教」がどのように関わっているのかを考えるための具体的な材料を提供する。	
	日本宗教史	日本社会において、宗教観および世界観は、どのように展開して現在に至っているのかを通観する。主に神道と仏教とを軸として、「伝統」や「習俗」が形成される過程をたどることを目標とする。人々が何を畏れ、敬い、祀り、信じ、生や死とどのように向きあってきたのか、自らや周囲をどのようにとらえてきたのかについて、遺された史資料を基に分析し、最新の研究成果を紹介することにより、それらが現代に生きるわれわれに投げかけているものは何か、ということを考える手がかりとする。	
	宗教と現代社会	宗教は古来さまざまな姿かたちをとりながら、社会のあり方と密接に関係してきた。政治の中枢に入り込むこともあったし、戦争や虐殺を引き起こすことさえまれではなかった。しかしその一方で多くの人々の魂の救済の役割を果たし人生の希望となることも少なくなかった。また大きな社会運動と結びつくこともあった。こうした歴史的文化的な営みとしての宗教を、特定の宗教に偏ることなく、広い角度から検討することによって、現代社会にとって宗教が果たす役割を考える。	
	総合教養演習 (人間自身を知る)	総合教養科目「人間自身を知る」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「人間自身を知る」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	
<b>(人間の知的生産)</b>			
	ことばの世界	ことばが人間にとってどのような意味を持つのか、社会や文化との関わりの中でことばの役割とは何かという問題意識のもと、私達の身近にありながら、ふだん意識することの少ない「ことば」の機能や特質を客観的にとらえることを目指す。他言語との違いも視野に入れながら、日本語の構造的特性を明らかにした上で、身近な具体事例を言語学的に分析していく。実際の社会における「生きた」ことばの実態や変容を探ることによって、自然に言語学的な考え方が身につくようにする。	
	日本の文学	文学作品には、それが書かれた時代それぞれの文化的状況が色濃く投影されている。一方、伝統的に書き継がれていくことによって地域的な特徴を形作ってもいる。この授業では、日本の文学について、代表的作品を時代別に取り上げる。それらの芸術的特質や文学的意義をその背景となる歴史と文化の関連において理解すること、文学者たちが自己の人生といかに関わりながら作品を創作したのかを見ることを通じて、学生自身が文学との関わりを主体的に考えることを目標とする。	
	児童文学	児童文学の誕生から現代までの発展への過程を各時代の代表的な作品にふれながら概観する。絵本からファンタジーまで、さまざまなジャンルの児童文学作品を読み、その多様性にふれながら多角的な視点から考察することによって、児童文学の特質について考える。児童文学の中のフェミニズムや絵本におけるジェンダー的視点も解明する。	
	比較文学	比較文学は、非言語で表現されたものも含めた広い意味での文学テキストに、複数の文化要素の接触、交錯を見ようとする試みである。日本および海外でなされた代表的な比較文学研究の例を見ることで、研究の主要な方法を学びつつ、国内外の文学テキストを比較しながら分析することを通じて、多様な異文化を理解し、同時に自らの文化のあり方を問い直していくという視座を養う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	比較文化	<p>文化間や種別間(男女やジャンル)の違い、さらには「違い」という境界の意識そのものに関して、交流や衝突、受容や影響、越境などの多様な視座から多角的に照射する。一つのテーマに関して、超領域的で学際的な講述を展開することによって、「文化」に関する学生の理解と意識をたかめるとともに、東西文化・異文化理解・異文化受容をキーワードとして、研究方法としての「比較文化」のありかたと可能性を示す。本講座は、上記の目標を達成するために、専門の異なる3人の教員によるオムニバス方式(全15回)をとる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (H30年度 10 田中美保子・59 中野貴文・209 土合文夫、H31年度 3 篠目清美・31 坂下史・59 中野貴文、H32年度 12 赤堀三郎・23 小田浩一・57 高橋修、H33年度 1 原田範行・17 今井久代・55 白井恵一/3回)(共同) 本講義の序論として、世界文化の諸相を概観し、次いで各回の基礎的視座について概説したうえで、研究方法としての「比較文化」のありかたと可能性について講述する。(1回) 本講義の中間のまとめとして、文化の交流や衝突、受容や影響、越境などについて、講師全員で討論を行う。(1回) 本講義のまとめとして、講義全体を振り返ったのちに、研究方法としての「比較文化」のありかたと可能性について、講師全員で討論を行う。(1回)</p> <p>(H30年度 10 田中美保子、H31年度 3 篠目清美、H32年度 23 小田浩一、H33年度 1 原田範行/4回) 英語文化圏を取り上げ、異文化理解をキーワードに、比較文化研究の実例を挙げながら講述する。</p> <p>(H30年度 209 土合文夫、H31年度 31 坂下史、H32年度 12 赤堀三郎、H33年度 55 白井恵一/4回) ヨーロッパ文化圏を取り上げ、異文化受容をキーワードに、比較文化研究の実例を挙げながら講述する。</p> <p>(H30年度・H31年度 59 中野貴文、H32年度 57 高橋修、H33年度 17 今井久代/4回) アジア文化圏を取り上げ、東西文化をキーワードに、比較文化研究の実例を挙げながら講述する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	宗教音楽	ユダヤ教から大きな影響を受けた初代教会の時代から、現代に至るキリスト教音楽の歩みを解説する。音楽史全般にわたる基本的な流れをふまえながら、中世から現代までの各時代の特徴的な様式、音楽上の技法、演奏形態等を把握しつつ、主にキリスト教的題材に基づく代表的な作品をDVDやCD等の鑑賞を中心に紹介し、教会音楽のもつ魅力を探る。教会音楽を支えてきたパイプオルガンを使用してチャペルで授業を行う場合もある。	
	音楽芸術	音楽(music)という言葉は、音芸術を意味する「ミュージック」(ムーサー)に由来するギリシヤ語「ムシケー」に遡る。後の西洋音楽の理論等に多大な影響を及ぼした古代ギリシヤの音楽等について文書資料や絵画資料等から情報は得られるものの、当時の音楽的な実態は明らかではない。この授業では、最古の楽譜が現存する単旋律の音楽の後約1千年かけて様々な発展を遂げてきた西洋音楽の中から、個々の時代や作曲家、或いはジャンル別に器楽・声楽作品を取り上げて、それぞれの特徴に注目し、作品における音楽的手法の理解を深めながら、その音楽の持つ芸術性を探る。	
	音楽史	中世から現代に至るまでの西洋音楽の歴史を辿りながら、その中でも特に重要な位置を占める器楽・声楽の作品、及び各時代の作品を生み出すために深く関わりを持ってきた様々な楽器や作品のジャンル等に焦点をあてつつ、それぞれの時代における様式上の特徴や作曲上の手法・形式を説明し、代表的な作品を取り上げ、DVD、CD等の鑑賞を中心に解説する。	
	美術論	美術を広く文化のなかにあるものとして捉え、美術の意味を明らかにすると同時に、講義を通して美術を見る眼を養い、多様な美術に関心を向けさせることによって、学生の知的生活を豊かにすることを目的とする。授業では、さまざまな地域・時代の美術を対象に重要なトピックを取り上げ、図版や映像を使用しながらその発展を追う。また、それらがどのような文化状況のなかから生じ、どのような文化的意味をもったかを、文献資料をも併用することによって掘り下げ、美術に対する深い理解を図る。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	映像論	映像は見れば理解できるのだろうか。自分が見たという「実感」は、はたして自分が「見た」のか、「見せられた」のか。報道映像でさえ、編集や修正次第で、いかようにも異なった事実を伝播する危険性も持っている。この授業では実際に映像作品に触れてその魅力を体験すると同時に、撮影・編集技法、およびそれぞれのフィルムの歴史的・文化的背景を学び、様々な角度から「異文化」として観察することで、映像表現の歴史と可能性、表現と受容の多様性を考察することを目的とする。	①と②を年度ごとに交互に開講  ①「美術論」 「映像論」 ②「舞台芸術論」
	舞台芸術論	演劇や舞踊など、さまざまな表現形態をもつ舞台芸術の流れを、実際の作品を鑑賞しながらとどろ、その特質を考えることを目標とする。舞台芸術の源流は、祭りに際して、集団を束ねる重要な場として、有史以前から存在していたものと考えられる。その後、舞台芸術は、社会体制、政治体制に応じ、またはそれらの変化に伴い発達していく。この授業では、舞台芸術の歴史や鑑賞法について基本的知識を獲得するとともに、芸術と社会の関連もふくめた全般的な認識を深め、舞台芸術と主体的にかかわる態度を涵養する。	
	日本文化史	行事・風習・信仰などの日本文化について、歴史的展開を踏まえながら、その特徴を解説する。ビジュアルな調査資料を使用しつつ、有形・無形を問わず我々の身の回りに存在する、多様な文化現象を具体的なイメージを持って把握できるようになることを目標とする。現代の日本文化は伝統文化とどのように連続し、あるいは断絶したのか。そして、外国文化から過去どのような影響を受け、またどのように異なる点が日本の独自性といえるのか、多角的なアプローチも試みながら、日本文化の歩みについて考えていく。	
	日本の伝統芸能	日本の伝統文化として継承されてきた芸能の歴史や特質について、観賞するための基礎となる時代状況や文化的背景を取り上げつつ、具体的な演目を通して学ぶ。また、伝統芸能を観賞するための基礎となる時代状況や文化的背景についても取り上げる。伝統芸能が生活に密着したものであり、現代に通じる部分も多いという点に着目し、演者の巧みな話芸や動きが伝えるメッセージについて、演ずる側の視点も盛り込みながら考えていく。	
	世界の地域と民族	世界の諸地域・民族は変動をくり返しながらも、相対的に異なる多様な社会や文化を築いてきた。本授業では、そうした変動のなかにある個々の地域・民族を取り上げ、それらの社会や文化の特徴が産み出されてきた過程を、政治や経済などを含む、生態的条件や歴史的な変動を通して考察し、当該地域・民族への理解を深める。それらの地域・民族の固有の諸問題が中心に論じられるが、ただ単にそれらを孤立した存在として見るのではなく、それらを取り巻く他地域・民族との比較や関係をも視野に入れる。そうしたアプローチを通して、それら諸地域・民族の歴史を、広く人類史の中に位置づけて考察し、理解することを目指す。	
	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパの文化はダイナミックに変化しながら世界に広がり、時に各地の文化と軋轢を引き起こしながら、一方でモデルとしても機能してきた。この授業では、ヨーロッパ地域に現れた歴史上の様々な現象を取り上げ、それがいかなる歴史的、文化的背景から生じてきたか、またそれらの現象が既存の社会や文化をいかに変化させてきたかを探る。それを通し、ヨーロッパの社会や文化がどのように形成されてきたか、そしてそれがいかにして多様性と共通性を産み出し、現状に至ったかを歴史的に理解できるようにする。さらに、この理解の上に、異文化と主体的に関わることの意義を考える。	
	アメリカの歴史と文化	「アメリカ」と呼ばれている地域は、ひとつの共通性を有する一方、極めて多様な自然・社会・文化を内在させた地域でもある。この共通性と差異性がどのように形成され、その表現方法が転換していったか等を歴史的に考察する。この授業ではこうした観点からアメリカの人々と「私たち」の視点の差異、またそれぞれの関わりを考慮しながら、アメリカの文化・自然の歴史と現状に関する理解を深める。重要なテーマをいくつか抽出し、テキストや映像資料などを用いて解説すると共に、異文化と主体的に関わる態度を涵養する。	
	ラテンアメリカの歴史と文化	現在「ラテンアメリカ」と呼ばれている地域は、極めて多様な自然・社会・文化を有する地域である。この授業ではラテンアメリカの人々と「私たち」の視点の差異、またラテンアメリカ諸地域に存在する共通性と多様性を意識しながら、人々の行動の背景にある「文化」がいかなる歴史の中で生まれ、それが現在どのような現象となって現れているかについて理解を深める。この地域の文化的特長を理解する手がかりとなるいくつかの事項について、テキストや映像資料などを用いて解説すると共に、異文化と主体的に関わる態度を涵養する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アジアの歴史と文化	アジア各国は文化面をはじめ種々の側面において、多くの共通性を有する一方、地域や歴史による差異性も有している。この授業では、アジア地域に現れた歴史上の様々な現象を取り上げ、それがいかなる歴史的、文化的背景から生じてきたか、またそれらの現象が既存の社会や文化をいかに変化させてきたかを探る。それを通してアジアの社会や文化がどのように形成されてきたか、そしてそれがいかにして多様性と共通性を産み出し、現状に至ったかを歴史的に理解できるようにする。さらに、この理解の上に、異文化と主体的に関わることの意義を考える。	
	民俗学	日本民俗学の対象、課題、方法の概要を、それらの変遷・展開や成果の具体例を提示しながら講じる。この学問が対象とする「民俗」とは何か、どこにどのように存在しているのか。それはどのような手続きによって資料化され、どのような理論・方法に基づいて分析や解釈が行われるのか。それらは学史としてどのように変遷・展開を遂げているのか。さらには、伝統社会の変容や、現代の地域・集団の中で人々が育む暮らしや仕事をめぐる文化の動態について、民俗学がいかに肉迫し、どのような成果を挙げてきているか。こういった諸問題を解説する。	
	歴史の見方	歴史の中で、人間は種々の社会集団を、階級や人種、性や年齢、国家や地域、民族や言語などにより形成し、それらの間には、支配・被支配、同盟・非同盟、中心・周辺といった様々な関係を取り結んできた。これまでの歴史研究において、それらの諸関係の実態やその形成の歴史的・空間的な諸条件の究明とともに、その研究法、さらにその歴史的意味や解釈などについても種々の理論提起がなされてきた。本授業ではこうした諸関係のうちから一つあるいは複数の問題に光をあてて、歴史的な観点から迫るとともに、それらに関する意味づけや解釈の変化にも言及することで、歴史観の相対化の意義を理解する。	
	現代史の諸相	20世紀以降の世界の歴史を概観し、世界現代史を考察していくうえで必要となる基礎知識の体系的な修得をめざす。具体的には、現代史を動かしてきたイデオロギー、即ちナショナリズム、社会主義ないし共産主義、ファシズムが、どのように展開したかを理解し、その今日に残る問題を考える。また、現在も絶えない民族対立、人種主義、階級社会と大衆社会が抱える諸問題などを探り、そのメカニズムを理解する。同時に、現代史資料の検索方法および代表的な史料の内容紹介、読解・分析と密接にかかわる史料批判の方法等を講述する。現代史を考究していく際に不可欠の基本的技法も、新聞や映像メディア等の素材で補完しながら具体的な理解・修得をはかる。	
	アーカイブの世界	情報化社会が進む現代社会において、氾濫する膨大な情報を取捨選択した上で、記録として管理・保存し、活用可能な形に整えるアーカイブ(記録史料・文書館)にまつわる仕事の必要性は高まっている。近年の「公文書管理法」施行にともない、日本で定着化が進むと目されるアーカイブに関する基本的な知識の習得を目標に、授業を進める。 また、記録史料を取り扱う専門職であるアーキビスト、記録史料にまつわる専門的な保管機関である文書館の社会的役割と意義についても理解を深められるよう、様々な具体的事例を紹介しながら、講義を行う。	
	総合教養演習(人間の知的生産)	総合教養科目「人間の知的生産」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「人間の知的生産」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	
<b>(人間社会の仕組みと問題)</b>			
	日本国憲法	この授業では、国の統治機構、基本的人権を中心に、代表的な判例を紹介しながら論点を整理し考察していく。日本国憲法制定の歴史、基本的人権の歴史、プライバシーの権利、法の下での平等、自由権的基本権、社会権的基本権、統治機構としての立法権、行政権、司法権などを取上げて日本国憲法の基本原理を学び、憲法改正問題についても触れる。	
	公共政策と法	行政法は、国家の基幹に関わると同時に、私たちの身近な生活にも関わる法分野である。この授業では、実際の事例を取り上げながら、行政法の総論部分についての基礎的な内容を紹介する。具体的には、法分野全体における行政法の位置づけを明らかにし、行政組織(地方行政と国家行政)について解説する。つぎに、行政と国民の関わりを考察するとともに、行政の行為形式(計画・立法・行為・指導・契約)についてもふれる。参加・調査および情報収集・政策立案・政策評価・文書管理を概観する。最後に、情報公開や個人情報の保護など、最近の問題に触れながら、行政と国民のかかわりを考察する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	市民社会と法	民法は、日本の法体系の中にあつて、財産・取引・結婚と離婚、相続といった私たちの市民生活を広く規律の対象とする重要な法律です。この授業では、こうした民法のしくみを学ぶとともに、調停・和解・裁判という法による紛争解決の方法や法的なものの見方を身に付けることを目指します。身近な話題を織り込みながら、主として、民法の「総則」規定を解説していきます。	
	国際社会と人権	20世紀の国際人権概念の拡大をふまえた世界の人権発達の歴史を概観し、欧米社会を軸に広まり、世界各国の憲法に基本的人権の保障として謳われるようになった人権思想の流れについての基礎知識の修得をめざす。人権概念の拡大、国際人権法、人権尊重などに関わる重要なトピックに焦点をあてながら、戦争やジェノサイドの原因ともなってきた、人権侵害の歴史と現在の問題も取り上げる。	
	自治と行政	行政組織や行政活動に関する理解を深めることを目的とする。官僚制組織一般の構造と機能、日本の中央官庁システムの特徴とその歴史の変遷、日本における政治と行政のかかわりと官僚の民主的統制、行政改革の意義と限界、日本における中央と地方政府間の関係、自治体行政の特色、新たな行政課題に対する自治体の挑戦などに関して講義を行う。公務員志望の学生諸君のためにも役立つ講義を目指す。	
	社会学と現代社会	グローバル化、自由化という現代社会の構造的変動のなかで、さまざまな社会問題が顕現し、その解決や人間の幸福づくりのための枠組(産業主義、民主主義、合理主義、個人主義など)は問い直され、新しい枠組づくりが模索されている。社会学は枠組の模索という課題の一翼を担い、家族、地域、会社、行政、政治、教育、メディア、文化、科学技術、宗教、エスニシティ、国際関係など広い範囲の問題と関わっている。この授業では、社会的なもののかえり方とはどのような特徴を持つものなのか、具体的な問題を例としながら、社会学というものの考え方の核となるものについて解説する。	
	地域社会論	日本の社会学は、日本の伝統的な地域社会構造、現代日本の地方都市や中山間地域社会のかかえる問題を明らかにし、他方で高度経済成長以降の日本の地域社会の変動、現代の大都市のかかえる諸問題などを考察してきた。さらに、現代社会のグローバル化をふまえた、新しい研究が展開され始めている。すなわち、地域の衰退(限界集落、離村、廃村など)、都市貧困層(若年未就労者、高齢者、エスニックマイノリティなど)の増大などが問題となり、解決のために自立支援と共生社会開発の方法が模索されている。こうした地域社会研究、地域文化研究などの成果を紹介しながら、グローバル化する地域社会の問題を考察してゆく。	
	社会保障と社会福祉	福祉の概念を理解し、その根幹となる社会保障と社会福祉を考える。社会保障は人間の生活にかかわる生活保障の一部である。誕生前の胎児期から死亡までに生じる就職、結婚、出産、傷病、老齢、死亡といったライフサイクルに沿って生じる人生のリスクに対応して社会保障制度が体系化されている。日本の社会保障について、公的扶助(生活保護)と社会保険(年金と医療)の制度を中心に学ぶ。高齢者の問題、ジェンダーの問題、医療の問題などをめぐり、少子高齢社会における社会保障と社会福祉の歴史、現状、将来の課題について学ぶ。	
	情報と社会	コンピュータを中心とする情報技術の発達が今日の社会・文化に与えている変化について、歴史的経緯とその意味を考える。コンピュータ技術そのものではなく、そのようなコンピュータのあり方を形成してきた文化的背景を取り上げる。この授業では、現在、インターネットを中心とする情報技術がどのように発展しつつあるのか、またそれがどのような社会・文化の変化をもたらしつつあるのかについて考える。また、その中で、情報コンテンツの著作権などをめぐり、情報倫理の問題がどのように提起され、どのように論じられているのかについても理解する。	
	現代社会と教育	現代社会における子ども・青年の生活と教育をめぐる問題、たとえば、貧困と就職難の問題、学校や教育産業を介して加速される学力競争がもたらす弊害などを、現代社会の仕組みや機能などとの関連で扱います。現代社会の特徴として経済的競争のグローバル化や高度情報化の進行、それにとまらぬ政治化の浸透を挙げることができますが、人類が追い求めてきた、一人ひとりが自由かつ平等であるという理念を実現するためにはどのような条件が現代社会と教育に求められるか、考察を進めます。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	近現代日本の政治史	鎖国という独自の外交体制をとっていた日本は、西洋諸国のアジア進出の脅威にさらされた。それは独立の危機であり、植民地化の危険性を孕んでいたが、日本の指導者は近代国家を形成し、富国強兵をめざすことで乗り切ろうとした。それは日本の「文明国」化と帝国主義化であり、他方では東アジアでの優越的な地位につながった。日本はやがて大国となったが、昭和期になると既存の国際関係に挑戦し、新たな国家体制の構築に向かい、戦争と敗戦、そして戦後の新たな歩みが始まることになる。本講義は日本の近現代史を、政治・理念・認識を中心に考察する。	
	国際社会と日本	日本と国際社会との関係を多面的に分析し、将来の日本の針路を考えることを講義の目的とする。現在の日本が抱えている外交、安全保障に密接な関係をもつ諸問題について時事的な問題も盛り込みながら講義する。グローバル化によってボーダレス化が進む一方、主権国家体制が存続している現代世界における日本の位置づけについて理解を深める。	
	平和学	我々はこれまで「平和」について真剣に考えたことがあったであろうか。「平和」を追求すべきだとの価値観にたつ学問が「平和学」である。この授業では各種の「平和」概念の整理をしてから、「構造的暴力」や「積極的平和」、「中心と周辺」などの論争的な概念を学び、次いで紛争の原因分析、紛争予防の試み、平和構築などを考察する。	
	ヨーロッパの比較政治	EUを中心としたヨーロッパ諸国の政治体制、外交政策の比較を行い、ヨーロッパの政治を理解させることを目標とする。統合されたヨーロッパ、多様なヨーロッパの両面を論じることによって、理解を深める。EUの誕生から発展、EUの現状、ユーロの導入、トルコなど非EU諸国の加盟問題、NATOの現代的な位置付け、欧州地域内の民族問題、ヨーロッパ諸国と国連・米国・日本との関係などについて講義を行う。	年度ごとに交互 に開講
	アジアの比較政治	ASEANを中心としたアジア諸国の政治体制、外交政策の比較を行い、アジアの政治を理解させることを目標とする。アジア諸国は、民族や宗教が多様である半面、稲作文化や港市国家の文化等、多くの共通性も有している。こうした特徴を説明する中で、アジアに対する理解を深めたい。ASEANの設立と現状、ASEAN内における後発諸国の問題、APEC・ARFなどアジアの地域機構の役割、アジアNIESの経済発展、東アジア共同体の可能性などについても触れる。	
	日本の産業と企業	日本のさまざまな産業の現状や特徴、さらには課題について具体的に学ぶことを目的とする。この授業を通して、広く日本経済の動向と日本企業の経営動向・手法等について理解を深めるとともに、日本の産業の展望を探っていく。また産業界の動向に応じて新しいトピックスを取り入れることで、最新の情報にも触れることが出来るよう、講義を進めていくものとする。	
	日本経済のしくみ	日本経済は高度経済成長、オイルショック、バブル経済とその崩壊、さらに「失われた20年」を経て、新たな展開を迎えている。また東日本大震災を経た日本経済は新たな対応を迫られることとなった。このような様々な経済の局面、その時々々の課題と対応を理解するために必要な専門用語や経済的な思考を学び、日本経済をより専門的な視点からとらえる能力を身につけることを目的とする。	
	グローバル経済のしくみ	「グローバル経済」は複雑かつ動的である。アメリカ、EU、アジアに代表される経済圏は内的に発展を続け、外的に相互の関係を深めつつある。本講義では先進国、開発途上国、さらには新興国それぞれの現状と課題を概観する。また、経済の専門用語の理解、貿易や為替などの仕組みについても学ぶことで、グローバル経済を論理的にとらえる能力を身につけることを目的とする。	年度ごとに交互 に開講
	アジアの経済事情	アジア経済圏はアメリカ、EUに並ぶ巨大経済圏に成長した。これは成長著しい中国、東南アジア諸国の経済発展、また先進国である日本の存在による大きなものと思われる。その一方で、発展から取り残された地域の存在も無視できない。本講義では世界経済をけん引する力強い成長と開発途上国の開発の双方の視座より、アジア経済の現状や課題について理解を深めることを目的とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際金融と貿易	現在の日本経済の状態を知るためには、他国の経済や国際的な貿易、金融、労働移動のシステムを理解することが不可欠である。本講義では国際金融と国際貿易に関する基礎的な概念、制度、理論を学ぶことを目的とする。また、現在世界で進行している経済のグローバル化が金融や経済及び国民の労働や生活にもたらす影響や、グローバルな政治経済の中で今後の日本経済の展望について考える。	
	統計のしくみ	人間科学や社会科学における実証研究を行う上で必要不可欠になってくる統計的な世界観、その基本的な概念、すなわち、一定の誤差や変動を内包した事象への接近法、基本統計量と統計的推定の考え方、検定の方法などについて、数学が苦手な受講者を想定しつつ一通りの理解をめざす。具体的な項目としては、変数・尺度と適用可能な操作、度数分布表、統計グラフ、代表値、散布度、相関、クロス集計、検定の理論の基礎、 $\chi^2$ 乗検定などについて扱う。	
	統計分析を学ぶ	統計的知識を活用してデータを分析できる力をつけることを目標とする。具体的には、度数分布、基本統計量、正規分布、変数の標準化、相関と散布図、クロス表などの記述統計という基礎をベースに、確率論の基礎、母集団と標本・標本抽出法のサンプリングの概念、検定・推定の理論とその応用(平均と比率の差の検定、相関係数の検定、クロス表の独立性の検定など)に加え、分散分析、回帰分析、重回帰分析などの一般的なリニアモデルを使った検定や分析方法などを扱う。	
	エネルギー産業と国民生活	本講義は、エネルギー産業の特性を経済学的視点から理解し、電力自由化の理論とその実際について学ぶことを目的とする。東日本大震災後のエネルギー産業の変化、さらには原子力発電とエネルギーセキュリティをめぐる論点など、包括的に扱う。この授業を通じ、今後の電力自由化後の日本のエネルギー供給体制、インフラ投資の必要性などの新たな課題など、最新の情報にも触れることが出来るよう、講義を進めていくものとする。	
	総合教養演習 (人間社会の仕組みと問題)	総合教養科目「人間社会の仕組みと問題」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「人間社会の仕組みと問題」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	
<b>(女性のウェルネス)</b>			
	女性のウェルネス・身体運動Ⅰ	身体的にも精神的にも社会的にも良好で生き生きとした状態を積極的に得る為に、女性のライフステージからみた健康と身体運動についての基礎的な知識を学ぶ。そして心身のコンディションを自己管理する重要性和基礎的手法を学び、各種トレーニングを通して自己の身体を認識し、将来起こり得る健康上の様々な状況に適宜対応できる知識と身体能力を養う。また、様々なスポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高める。	
	女性のウェルネス・身体運動Ⅱ	女性が生き生きとした社会生活を営むために必要な健康を支える方法論について学ぶ。自己の身体を各種測定で把握し、望ましい生活習慣と運動による正しい健康増進法を理解する。また、各種エクササイズやスポーツなど、グループ活動を通して他者と共に楽しみながら自己の身体能力やコミュニケーション能力を高め、心身の融合及び健康の維持・増進を図るための正しい運動法を身につける。さらに生涯を視野に入れ、自分に適した健康法、運動法のプランを立て、主体的に実践していく力を養う。	
	からだの科学	からだや健康に関することからについて、日々の生活で身近な話題や日常生活で役立つ内容も多く取り上げながら、からだの機能やメカニズムを科学的に捉え、運動に対する適応の仕組みを学び、積極的に健康を育てていく姿勢を養う。女性のからだに着目し、妊娠・分娩・婦人科疾患についても学び、健康で自分らしく生きていくためにはどうすれば良いかを考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	発育と発達	子どもは自発的に遊び、子どもりの方法でその動きを身につけながら育っていくことが理想であるが、現代社会においては必ずしもそのとおりにはいかない数々の事情がある。本講義では、子どものからだの発育・発達の原理・原則を学び、さらに、体力・運動能力に影響する要因や正しい測定・評価方法などの知識を身につける。「育った」結果としての自分を考察するとともに、次世代を「育てる」自分を見据え、子どもの好ましい発育・発達を考える。	
	栄養と健康	健康に生きるための「食」についての知識、理論、実践法を学ぶ。栄養と運動は健康に直結している。摂取する食のエネルギーと生きているからだが使うエネルギーのバランス及びその内容の重要性について学ぶ。また、現代社会ならではの食の問題について考え、自らの食生活をチェックすることなどを通じて、健康に過ごすための食生活について理解を深める。	
	現代社会と身体	身体を取り巻く様々な問題を取り上げる。急激な情報化がもたらされた現在「自己の存在の希薄化」と「他者との身体的コミュニケーションの困難さ」という身体問題がクローズアップされてきた。ここでは、現代社会の身体を取り巻く諸問題について歴史の変遷を学び、健康と身体・日本人の身体・差別と身体・メディアとしての身体等の事象を取り上げ考える。ジェンダー的視点も取り入れ解決の糸口を探る。	
	女性の健康科学	女性の基礎的教養として、生涯を通して必要な女性の身体とその機能、それに付随する事柄を科学的に理解することを目標とする。身体の解剖・機能・妊娠・分娩・婦人科疾患などについて基礎的な事柄を理解する。また性的問題や不妊治療、出生前診断などの、生理的知識のみならず、倫理的問題、またジェンダーの視点も加味して、性や生命の問題について考えを深める。	
	性と生命 (セクソロジー)	本講義では生理学、性科学、ジェンダー、性の多様性、人間の性愛とは、性と社会など多面的に考察する。時代の大きな変化の中で「性」のあり方も大きく変わりつつある。かつて女性の性は自らの意思や希望によって選ぶことなど許されなかった。結婚する、しない、産む、産まない等、自己決定や選択の余地はなかったのである。今、それらは選択の対象となった。それは結果について自ら責任を負うことである。自分自身納得できる生き方を貫くためにはどうしたらよいか。性への偏見や思い込みを捨て一から学び直す。	
	女性の心身コンディショニング	現代社会は様々なストレスにより心と身体の不調を訴える人々が増加している。この講義では、女性が健やかに一生を送ることができるよう心身のコンディションを整えるための理論と方法論を学ぶ。はじめに身体の構造を学び、不快症状の原因を探る。さらにその解消方法を様々な健康法から学び、実習することにより心身の自己管理能力を養い、生涯を健康的で豊かに過ごす能力を養う。	
	スポーツ A	スポーツは、私たちの生活を豊かにすることができる「地球規模の共通文化」である。ここでは様々なスポーツの中から、屋外で出来るスポーツ(テニス、サッカー、ソフトボール等)を取り上げ、基礎技術を習得し、身体能力の増進をはかり、スポーツを通じてコミュニケーション能力を養う。さらに生涯の健康増進も視野に入れ、スポーツを主体的に日常生活に取り入れていくための素養・能力を養う。	
	スポーツ B	スポーツは、私たちの生活を豊かにすることができる「地球規模の共通文化」である。ここでは様々なスポーツの中から、屋内で出来るスポーツ(バドミントン、卓球、バスケットボール等)を取り上げ、基礎技術を習得し、身体能力の増進をはかり、スポーツを通じてコミュニケーション能力を養う。さらに生涯の健康増進も視野に入れ、スポーツを主体的に日常生活に取り入れていくための素養・能力を養う。	
	スポーツ C	様々なスポーツを通して自分に合ったもの及び方法を探り、生き生きとした生活の一部として組み入れることができるよう、実践的に学ぶ。ルールを守り、安全に実施することも重要な課題である。そのスポーツ特有の面白さを理解し、できないと思っていたことができるようになっていくプロセスを体験することにより、その魅力を第三者にも伝えられるようになることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツD	スポーツに関わる形は多様化しており、環境やルールや用具などを選択することにより、幼児から高齢者、体力の低い人や障害のある人でも生涯にわたり楽しむことが可能である。健康の維持・増進だけでなく、趣味や生きがい、社交の場ともなる生涯スポーツの意義や価値を知り、様々な活動の形に興味・関心を持って主体的に関わる態度を養う。基本技術を習得し、「できる」ことを増やすことで生涯スポーツの可能性を広げる。	
	フィジカルエクササイズA	本授業では伝統的中国養生法、身体技法をとりあげ、現代に生かす身体観、健康観の基礎を築き、身体技法を身につけることを目標とする。心を動かし、そして、身体を動かす。太極拳、練功十八法等を通して、動くことを外から見える身体の運動だけでなく、心の内面の充実、ゆっくり、心と対話しながら、身体の内面を磨くために伝統的身体技法を身につける。	
	フィジカルエクササイズB	代表的な健康法として知られているインド発祥のヨガは、特有のポーズと呼吸法で身体全体の免疫力の向上、ストレス緩和効果など、健康の維持や増進に役立つ効果がある。また、ピラティスはリハビリテーション・プログラムとして開発された経緯を持っているため様々な年代においての健康増進や筋力強化に効果がある。ここでは、ヨガやピラティスについての正しい基本的な知識や方法・効果について学び、実習を通してその技法を習得し、生涯の健康を支える自己管理能力を養う。	
	フィジカルエクササイズC	痩せたい、筋肉をつけたい、スポーツがうまくなりたいなど、目的によって様々なトレーニング方法があり、メディアには多くの情報が氾濫している。しかし、運動(トレーニング)と身体の変化には原理・原則がある。その基礎理論を学ぶことにより、それらの情報の持つ正しい内容を理解できるようになる。目的に応じた適切なトレーニング・プログラムを自ら作成する力をつけ、継続的に実践することにより、自分の身体が変わっていくことを知る。	
	身体表現A	人類の誕生と共に発生したダンスは、歴史・民族・風土・社会と深く関わりながら舞踊文化・身体文化を作り上げてきた。ここでは芸術性を重視したダンス(バレエ等)を取り上げ、その歴史的変遷を学び、各ダンスの特徴を学習していく。同時に基本技術を習得し、身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。	「身体表現C」と交互に開講
	身体表現B	身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。ここでは現代的なリズムに合わせたダンス(ジャズダンス・ヒップホップ等)の歴史的変遷を学び、基本技術を習得し、身体を通して表現する。音楽にあわせて踊るジャズダンスやヒップホップといったダンスを通して身体に意識を向け、ダンステクニックの基礎を習得しながら、表現力と感性を高め、身体表現の可能性を広げる。	
	身体表現C	日本人の身体文化に注目する。日本人の立ち居振る舞い、その特徴、日本の舞踊文化の歴史的変遷を学ぶ。踊りを習得し衣装を付け、身体を通して表現する。授業を通して、日本の伝統文化を発信できる知識も養う。伝統に培われた自然な身体技法を身に付けながら日本文化の真髄をからだで味わい、表現する。	「身体表現A」と交互に開講
挑戦する知性科目	ケンブリッジ教養講座	この科目は、学生の学習機会の多様化を促進し、国際人としての広い社会的視野と深い見識を身につけることを目的とする。本学の夏期休暇中の約4週間、海外の大学で実施する教養講座に参加し、所定の成績を修めた場合の単位認定の科目として設置する。 本学で身につけた外国語の運用能力を用いて、講義・討論・発表等を行なうことで、個々のテーマに関する知識を拡充し、その理解を深めると同時に社会・経済・文化をグローバルな視点で捉える能力の育成をめざす。	
	PBLキャリア構築講座	本演習は、2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。この授業はPBL方式で行い、現実社会における課題にチームで取り組む。一人ひとりが問題解決力、行動力、リーダーシップをとる能力を高めることを目的とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語特別プログラム	British Councilからの派遣講師による、本学学生のために特別に開発されたプログラムを用いた講座。ビジネスなど様々な分野で使用する実践的な英語力を養い、職場などで必要となる高度なディスカッション、プレゼンテーション、スピーキング、ライティングのスキルの習得を目指す。特に、履歴書の作成、願書・申請書などの作成、グラフの作成、プレゼンテーション、電話による応対、ビジネス・ミーティングなどの項目を含む。	
	Critical Thinking演習	Students in this course will learn to solve problems through the use of critical thinking techniques and strategies. Students will learn to identify their values and prejudices, and compare alternative ways of solving problems in order to make well-reasoned decisions. A major focus of this course will be analyzing arguments and possible logical fallacies in public discourse. この授業ではcritical thinkingの技法や方略を用いて種々の問題を解決することを学ぶ。自分の議論のなかに存在するさまざまな価値基準や先入観を見極め、問題解決のための多様な代替案を比較検討することで、実生活において、より理路整然とした結論を導きだすことを目指す。この授業では、公共の議論の場における言説を対象に、そこにおけるさまざまな議論、そして考えられる数々の論理の間違いや論理のすり替えを分析することに、特に焦点をあてて学習する。	
	発話・パフォーマンス演習	Students will learn not only how to organize presentations through a practical, step by step framework, but also how to deliver presentations effectively with appropriate eye-contact, pronunciation, voice control, etc. Students will practice oral presentations in class and, with the benefit of video feedback and mutual evaluation, become more proficient at expressing their ideas. Activities such as e-learning will be assigned as out-of-class work in order to help improve general English skills. 英語プレゼンテーションの実践的な枠組みを段階的に学びながら、その内容の作文方法や論の組み立て方を学ぶ。そして、その内容を、適切なアイコンタクト、発音、声の抑揚などを伴って、効果的に伝達する方法を身につける。授業内で実際にプレゼンテーションを実施し、ビデオによるフィードバックや相互評価をもとに、より流暢に英語で考えを表現できるようにする。英語の4つのスキルを総合的に向上させるために授業外のe-Learningの課題を学習することを課す。	
	討論演習 1	This class is a public speaking course which builds upon and extends the skills acquired in the first year of the Career English program. Students will be required to research and analyze the information about their presentation topics, and participate in pair and group dialogues, discussions, and presentations. Students will also be required to complete self and peer assessments. Out-of-class activities will be assigned. この授業はキャリア・イングリッシュ課程の前年度の授業で習得したさまざまなスキルをふまえ、さらに発展させるパブリック・スピーキングの授業である。学生は、プレゼンテーションのテーマに必要なリサーチを行い、そこで収集した情報を分析する。授業ではペアワーク、グループワーク、ディスカッションに参加し、各自がプレゼンテーションを実施する。また、それらに対する学生による自己評価および相互評価も行われる。授業外での学習が課される。	
	討論演習 2	This class is a public speaking course which builds on and extends the skills learned in 討論演習 1. Students will develop their ability to exchange ideas and express their opinions in discussions and speeches on more challenging and complex issues than in 討論演習 1. Students will be required to think critically about the topics brought up by themselves and others and to express their opinions about them logically. Out-of-class activities will be assigned. この授業は「討論演習 1」で習得したさまざまなスキルをふまえ、さらに発展させるパブリック・スピーキングの授業である。「討論演習 1」で扱った問題よりもより難しく複雑な内容の問題についてディスカッションやスピーチを実施するなかで、英語で意見を交わし考えを述べる力を向上させる。自分あるいは他の学生が提示するテーマに関して批判的に思考し、それに対して論理的に意見を述べることを求められる。授業外での学習も課される。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Total Presentation演習 1	<p>This seminar is a public speaking course which builds upon and extends the skills learned in the last two years of in the Career English program. Students will develop their English speaking and listening skills through discussions and presentations on a range of challenging issues. Students will study a variety of topics in order to deepen their knowledge and understanding of the topic, enhance their vocabulary and think more critically.</p> <p>この演習はキャリア・イングリッシュ課程の過去2年間で習得したさまざまなスキルをふまえ、さらに発展させるパブリック・スピーキングの授業である。広範囲にわたる分野の難しい問題についてのディスカッションとプレゼンテーションを行うことで、英語のスピーキングとリスニング能力を向上させる。さまざまなテーマについて学ぶことによって、そのテーマについての知識と理解を深め、関連する語彙を増やし、より批判的に思考することを学ぶ。</p>	
	Total Presentation演習 2	<p>This seminar is the final public speaking course in the three-year Career English program and builds upon and extends the skills learned in トータルプレゼンテーション演習 1. Students will develop their English speaking and listening skills further through in-depth discussions and presentations on a range of challenging issues. Students will study a variety of topics extensively in order to deepen their knowledge and understanding of the topic, enhance their vocabulary and think more critically.</p> <p>この演習はキャリア・イングリッシュ課程3年間の最後のパブリック・スピーキングの授業であり、「トータルプレゼンテーション演習1」で習得したさまざまなスキルをふまえ、さらに発展させる。広範囲にわたる分野の難解な問題についての徹底的なディスカッションとプレゼンテーションを行うことで、英語のスピーキングとリスニング能力をさらに向上させる。広範囲のさまざまなテーマについて学ぶことによって、そのテーマについての知識や理解を深め、テーマに関連した語彙を増やし、より批判的に思考する。</p>	
キリスト 教学 科目	キリスト教学Ⅰ（入門Ⅰ）	東京女子大学とキリスト教の関係を学ぶことによって、本学の「建学の精神」を理解する。さらにキリスト教の全体像を学び、そのキリスト教の土台である聖書を学ぶ。入門Ⅰでは、「旧約聖書」の主たる内容を理解し、これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。	
	キリスト教学Ⅰ（入門Ⅱ）	入門Ⅱでは「新約聖書」を通してキリスト教の基礎を学ぶ。イエス・キリストの生涯とその教えを学び、とりわけキリストの十字架と復活の出来事の意味を理解し、さらにパウロらによる初代教会の歩みを学ぶ。これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。	
	キリスト教学Ⅱ（旧約聖書の世界）	キリスト教の正典の前半を構成している旧約聖書には、複雑な歴史と多様な文化、中近東特有の自然風土のなかで培われてきた豊かで奥深い思想（価値観、世界観、人間理解への洞察を含む）が観られる。それらは新約聖書にも流れ込み、キリスト教の重要な思想的基盤ともなっている。本講義ではいくつかの主要テーマを取り上げ、聖書テキストの精読とともに、歴史と文化、及び自然風土等の背景理解の手助けを借りながら、キリスト教の基本的理解を確かにする。	
	キリスト教学Ⅱ（新約聖書の世界）	キリスト教の正典の後半を構成している新約聖書には、旧約聖書から受け継ぎ、複雑な歴史と多様な文化との関わりの中で展開した思想（価値観、世界観、人間理解への洞察を含む）が観られる。本講義ではいくつかの主要テーマを取り上げ、聖書テキストの精読とともに、歴史と文化、及び自然風土等の背景理解の手助けを借りながら、キリスト教の基本的理解を確かにする。	
	キリスト教学Ⅱ（キリスト教と女性）	旧約聖書の創世記における男女の創造から始まり、聖書に記された女性に関する物語や教えを検証しながら聖書の女性観を理解する。また、キリスト教の歴史において重要な貢献をした女性たちの思想や活動を学びながら、現代に生きる女性の生き方を考える力を養う。	
	キリスト教学Ⅱ（キリスト教の歴史）	二千年前のキリスト教の成立から始まり、古代、中世、近代を経て今日に至るまでのキリスト教の歴史を概観する。その際、時代を特徴づける人物や出来事に触れ、現代を生きる我々にどのような関連を持つのかを考える力を修得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	キリスト教学Ⅱ (日本のキリスト教)	16世紀のキリスト教伝来から今日に至るまでの、日本におけるキリスト教の歴史を概観し、キリスト教が日本の文化・教育・社会に与えた影響を広く理解する。さらに、重要な貢献をなしたキリスト者や運動を取り上げ、その思想と活動を考察し日本人とキリスト教の関係をの理解を深める。	
	キリスト教学Ⅱ (世界のキリスト教)	キリスト教は全世界に広がっているが、時代により地域によりそれぞれ独自の発展をしてきた。本講義では、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカの諸地域のキリスト教を取り上げ、世界の諸地域のキリスト教の歴史や実情を理解する。	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と社会)	キリスト教が社会の形成にどのような役割を果たしてきたのか、さらに現代社会のかかえる諸問題とキリスト教がどのように関わり、実践活動を繰り広げているかを理解する。	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と現代の宗教事情)	キリスト教はローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタントの諸教会の3つの流れに分かれて展開してきた。この三者の思想、組織のあり方等を比較し、それらの特徴を理解する。また、世界に存在する諸宗教の中から主だったもの(ユダヤ教、イスラム教、仏教等)を取り上げ、キリスト教と比較しながら諸宗教を学ぶことにより、現代の宗教事情を読み解く力を養う。	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と倫理)	グローバル化し多元化する現代社会において、人はいかに生きるべきか(生の哲学)という問いをはじめとして、様々な今目的問い(性、環境、戦争等)にいかに応え得るのか。近代以降の倫理学の展開、その前提と枠組みを意識しつつ、キリスト教独自の倫理を、聖書テキストの精読を中心に、考える力を養う。	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教の思想)	約二千年前イスラエルの地に誕生した教会は、その後ギリシア・ローマ世界に拡大した。そこでユダヤの文化と、ギリシアの文化とが出会い、やがてキリスト教独自の考え方や思想が成立することとなる。神について、イエス・キリストについて、人間について、世界について、キリスト教はどのように考えてきたのか。こうした、その後の欧米文化の土台となったキリスト教独自の思想を理解する。	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と芸術)	キリスト教が芸術・文化に与えてきた影響や、キリスト教が生み出してきた芸術・文化について学び、芸術や文化形成におけるキリスト教の役割について理解を深める。	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と文学)	文学作品には作者の生き方や思想が反映されているが、それらは多くの場合、意識的あるいは無意識的に宗教や伝統から大きな影響を受けている。キリスト教の影響を大きく受けている欧米の文学作品を初めとして、日本及び諸外国の様々な作品を題材に、文学とキリスト教との関係を理解する。	
	キリスト教学Ⅲ (聖書と文化)	キリスト教をより深く理解するためには、聖書そのものの包括的、多角的理解が欠かせない。本講義では、特に聖書と文化との関わりに光を当て、キリスト教の中心思想及び諸文書の文学形式が、当時の文化を背景にしてどのように形成され展開していったのか、理解を深める。	「キリスト教学Ⅲ (聖書と文化)」 「キリスト教学Ⅲ (キリスト教の歴史と文化)」 「キリスト教学Ⅲ (キリスト教の思想と文化)」から毎年1科目開講
	キリスト教学Ⅲ (キリスト教の歴史と文化)	キリスト教の歴史における重要な出来事や人物、運動、制度などを取り上げ、その意義を理解する。世界宗教としてのキリスト教が歴史、文化形成にどのように寄与したのかを深く掘り下げ、現代の諸問題とも関連づけて考える力を養う。	
	キリスト教学Ⅲ (キリスト教の思想と文化)	キリスト教の思想が、いかに西洋の思想や文化の基盤となっているかを理解する。さらに現代では、キリスト教思想がアジアやアフリカを含む世界の諸地域に広がり、新しい文化世界を生み出しているかを理解する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	<b>(第一外国語)</b>		
	Communication Skills A	英語によるコミュニケーションに必要なリスニングおよびスピーキング能力を養うことを目標とする。日常生活のコミュニケーションにおいて必要とされる英語表現を学ぶことで、実践的な英語の運用能力を育成する。特に、日常会話の中で頻出する語彙、連語、決まり文句、丁寧表現等に焦点を当てる。ロールプレイやグループワーク等の教室活動を通して、会話能力を高め、効果的なコミュニケーションのテクニックの習得を目指す。授業のほかに、CALL教室を使用している自習プログラム(e-learning)を義務付けている。	
	Communication Skills B	英語によるコミュニケーションに必要なリスニングおよびスピーキング能力を養うことを目標とする。日常生活のコミュニケーションにおいて必要とされる英語表現を学ぶことで、実践的な英語の運用能力を育成する。特に、日常会話の中で頻出する語彙、連語、決まり文句、丁寧表現等に焦点を当てる。ロールプレイやグループワーク等の教室活動を通して、会話能力を高め、効果的なコミュニケーションのテクニックの習熟を目指すとともに、ストーリーテリングの力も養うことを目指す。授業のほかに、CALL教室を使用している自習プログラム(e-learning)を義務付けている。	
	Reading I A	高等学校卒業までに学んだことを土台に、大学で学ぶ専門領域の文献を英語で読む上で必要とされる基礎的な言語技能の習得を目標とする。特に、個々の文の正確な理解、パラグラフの理解、パラグラフ間のつながりの把握、文章の大意の把握等に重点を置きながら、基本的な読解力を養う。	
	Reading I B	大学で学ぶ専門領域の文献を英語で読む上で必要とされる基礎的な言語技能の習得を目標とする。特に、個々の文の正確な理解、パラグラフの理解、パラグラフ間のつながりの把握、文章の大意の把握等に重点を置きながら、基本的な読解力を養うとともに、文章の論理的整合性や論理的帰結を考える力を伸ばす。	
	Discussion Skills A	英語のスピーキング能力をペアワーク、グループワークを通して高めることを目指す。社会問題など様々なトピックに関する意見交換、グループ・ディスカッションにより、英語力のみならず、クリティカル・シンキング能力を養成する。ディスカッションに必要な語彙、文法、言語の機能を学ぶことに重点を置く。	
	Reading II A	1年次の「Reading IA, IB」で習得した基礎的な英語を読む言語技能を土台に、より高度な教材を用い、更なる読解力の向上を目指す。大学で学ぶ専門領域の文献を読むための、英文読解のコツを学ぶことが第一の目的であるが、論理的に構成された英語の長文を読むことで、学術研究に不可欠な思考力を養うことも重要な目的である。扱う英文のジャンルは論説文、時事問題、エッセイ、短編小説など多岐にわたる。	
	Speaking Skills A	必修科目であるCommunication Skills A, Bで学んだことを踏まえ、さらに口頭でのコミュニケーション能力を高めることを目標とする。相互交渉を行いながら進めるさまざまな会話の型を学び、語用論上のスキルや異文化間コミュニケーションに関するスキルの向上を目指し、効果的にコミュニケーションを行う力を養う。文法よりも言語の機能に焦点を当て、トピックには、アドバイス、旅行、休暇、健康、大学生活などを含む。教室活動は、グループワークが中心である。	
	Speaking Skills B	口頭での英語コミュニケーション能力を高め、英語で話す自信を深めることを目標とする。相互交渉を行いながら進める高いレベルの会話の型を学ぶと同時に、語用論上のスキルや異文化間コミュニケーションに関するスキルの向上を目指し、効果的にコミュニケーションを行う力を養う。トピックとしては、日常的な事柄に始まり、世界情勢、経済、意見の対比、意思決定など多岐にわたる。教室活動は、グループワークが中心である。	
	Listening and Presentation A	英語の聴解能力を高め、実際に各自が選んだトピックについてプレゼンテーションを行うことによってプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。視覚的にプレゼンテーションをすることも目指す。	
Listening and Presentation B	英語の聴解能力を高め、実際に各自が選んだトピックについてプレゼンテーションを行うことによってプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。授業の進め方は、「Listening and Presentation A」と同様であるが、より多様で高度なプレゼンテーション能力の養成を目指す。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Critical Reading and Discussion A	「Discussion Skills A,B」および「Reading I A, I B」で学んだスキルをふまえた科目である。さまざまなテーマに関して英語で書かれたものを批判的に読み、議論をするスキルを養うことを主な目標とする。各自が集めた英文で書かれた雑誌、新聞記事などの内容を要約し、更にその記事のテーマに沿って意見交換をし、説得に導く議論をするという教室活動を通してそのスキルを養うことを試みる。更に、英語で書かれたものを数多く読むことによって語彙を増やすと共に、速読のスキルを養うことも目指す。	
	Critical Reading and Discussion B	幅広いテーマに関して英語の長文を速読し、議論する力を身に付けることを目標とする。各自が集めた記事の内容を要約し、更にその記事のテーマに沿って議論をするという教室活動を通してそのスキルを養うことを試みる。雑誌、新聞記事のほかに評論も読む。教室活動では、特に相手を論理的に説得するための方略に焦点を当てる。「Critical Reading and Discussion A」と同様に、英語で書かれたものを数多く読むことによって語彙を更に増やすことも目指す。	
	Journalistic English A	ジャーナリズムの世界で用いられる英語の特徴を習得することを目標とする。新聞記事に焦点を当て、その中で使われる語彙、文法や見出しの構造を学んだ上で、各自新聞記事の書き方に沿って記事を書くことを試みる。周辺のニュースになり得る題材を見つけ、それについて英語で新聞記事を書くというプロジェクトを完成させる。さらに、各自が選んだ様々な新聞記事等を読んで分析し、それについてディスカッションを展開する能力を養う。	
	Journalistic English B	ジャーナリズムの世界で用いられる英語の特徴を習得することを目標とする。新聞記事に用いられる英語だけでなく、ラジオ、テレビ、インターネットなど他のメディアの英語にも焦点を当てる。それらに用いられる英語表現を学ぶと共に、内容についてもディスカッションを行う力を養う。プロジェクトとしては、誰かにインタビューをし、それについて英語で記事を書くことを試みる。	
	Academic Writing A	必修科目で学んだ総合的な英語力を土台に、多岐にわたる英文を批判的に読み、豊富な語彙や英語表現を身につけるだけでなく、思考する能力を養うこと、エッセイ・ライティングのスキルを習得することに重点を置きながら、さらにライティングの力を高めることを目標とする。各自が選んだトピックに関するエッセイを英文で書き、数回の修正を重ね、最終的に洗練されたエッセイとすることを旨とする。	
	Academic Writing B	「Academic Writing A」と同様に、必修科目で学んだ総合的な英語力を土台に、「Academic Writing A」より高度な英文を批判的に読み、豊富な語彙や英語表現を身につけるだけでなく、思考する能力を養うこと、エッセイ・ライティングのスキルを習得することに重点を置きながら、さらにライティングの力を高めることを目標とする。各自が選んだトピックに関する英文をピア・エディティングなどのグループ・ワークも取り入れて、修正を重ね、最終的に洗練されたエッセイを英文で書くことを目指す。	
	English through Drama A	英語で書かれたドラマを読むだけでなく、実際に演じることで英語の発音を体得し、英語のリズム、表現方法を学ぶ。パフォーマンスを通して、公の場で英語によるプレゼンテーションを自信をもって、また楽しみながら行うことを目的とする。また言語による表現のみならず、身体を使つての表現を伴うドラマのパフォーマンスにより創造性を養う。「English through Drama B」とは異なるジャンルのドラマを扱う。	
	English through Drama B	英語で書かれたドラマを読むだけでなく、実際に演じることで英語の発音を体得し、英語のリズム、表現方法を学ぶ。パフォーマンスを通して、公の場で英語によるプレゼンテーションを自信をもって、また楽しみながら行うことを目的とする。また言語による表現のみならず、身体を使つての表現を伴うドラマのパフォーマンスにより創造性を養う。「English through Drama A」とは異なるジャンルのドラマを扱う。	
	Business English A	一般的なビジネスの分野で使用される実践的な英語力を養い、職場などで必要となるスピーキング、ライティング、ディスカッション、プレゼンテーションのスキルの習得を目指す。特に、ビジネスで用いられる基本的な語彙・表現の習得、ビジネスメールや履歴書、願書、申請書などの作成、プレゼンテーション、電話による応対などの項目を含む。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Business English B	ビジネスの様々な分野で使用する実践的な英語力を養い、職場などで必要となる、より高度なスピーキング、ライティング、ディスカッション、プレゼンテーションのスキルの習得を目指す。特に、依頼や交渉の実践、ビジネス・ミーティング、企業のリサーチ、企業文化や習慣についてのディスカッションなどの項目を含む。	
	Translation A	日本語と英語の双方の感覚を研ぎ澄まして、言語の背景にある文化も考慮に入れ、ジャンルや読者層に合った英語／日本語に翻訳する能力を養う。各自が提出した訳文を、担当教員が添削し、その後、グループワークを通して推敲し、完成原稿を提出することで、日本語／英語の原文が表現する世界をこなれた英語／日本語で表現する力を体得する。「Translation A」は主に英語から日本語への翻訳を取り扱う。	
	Translation B	日本語と英語の双方の感覚を研ぎ澄まして、言語の背景にある文化も考慮に入れ、ジャンルや読者層に合った英語／日本語に翻訳する能力を養う。各自が提出した訳文を、担当教員が添削し、その後、グループワークを通して推敲し、完成原稿を提出することで、日本語／英語の原文が表現する世界をこなれた英語／日本語で表現する力を体得する。「Translation B」は主に日本語から英語への翻訳を取り扱う。	
	Tour Guide Interpreting A	外国人に日本の歴史・文化を英語で説明するためには、高度な語学力と日本事情全般に関する広範囲の知識が問われる。この授業では、そのための基礎となる英語力を養うとともに、日本について改めて学び、日本の歴史や文化を説明できる力を養成する。国際交流の場では日本について説明を求められる機会が多いため、日本のことを英語で発信する力を身に付けることは、通訳者を目指さない一般の学習者にとっても有効である。	
	Tour Guide Interpreting B	外国人に日本の歴史・文化を英語で説明するためには、高度な語学力と日本事情全般に関する広範囲の知識が問われる。この授業では、多様な英語変種に対応できる聴解力を含む、より高度な英語力と、日本的な事象について専門的に説明ができる力を養成する。資格取得を見据えた授業ではあるが、日本語と英語を磨き、その語学力を将来のキャリアにつなげたいと考える一般の学習者にとっても有効である。	
	TOEIC講座	国際的な英語力測定試験において期待される成果が収められるような実力を形成することを第一の目的としつつ、TOEICの試験対策に終わらず、社会でも役立つ実践的な英語力を養成することを目指す。TOEICの内容・目的の説明とそれに備えた準備訓練を行い、授業内でTOEIC模擬試験を体験する。	
	TOEFL講座	国際的な英語力測定試験において期待される成果を収められるような実力を形成することを第一の目的としつつ、TOEFL iBTの試験対策に終わらず、留学や社会などで役立つ実践的な英語力を養成することを目指す。TOEFL iBT試験の内容・目的の説明とそれに備えた準備訓練を行い、授業内でTOEFL iBT模擬試験を体験する。	
	IELTS講座	国際的な英語力測定試験において期待される成果を収められるような実力を形成することを第一の目的としつつ、IELTSの試験対策に終わらず、留学や社会などで役立つ実践的な英語力を養成することを目指す。IELTS試験の内容・目的の説明とそれに備えた準備訓練を行い、授業内でIELTS模擬試験を体験する。	
	Basic Communicative English	英語能力が充分ではないと感じている学生のために設けられた科目である。1年次の必修科目であるCommunication Skills A, Bの授業を自信をもって受けることができるように、十分な聴解力と話す力を身につけ、英語でのコミュニケーション能力を養う。特に文法や発音に加えて、自然なコミュニケーションを行う上で必要な英語表現を学び、基本的な日常の事柄を口頭で述べることができるような力を養う。週2コマの授業。	
	Intensive English	この科目は、本学が企画し外国の大学が提供する語学研修(英語)、および本学があらかじめ認めた外国の大学が実施する語学研修(英語)に参加した学生が、所定の成績を修めた場合の単位認定科目である。語学研修は、聞き、話し、読み、書く4技能にわたる語学力の向上と異文化体験による自己研鑽をはかることを目的に実施され、参加学生のレベルを考慮したクラス編成により授業が行われる。学生には、事前学習会等への出席が義務付けられている他、準備段階から積極的に自己の語学力を高めていく努力が望まれる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(第二外国語)		
	ドイツ語初級	初級では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 ドイツ語は、英語やオランダ語などとともに西ゲルマン語に属し、語彙や文法など様々な面で英語との共通点が多い。それゆえ、ドイツ語を学ぶことによって英語を客観的に見る視点を養い、類縁言語比較の面白さを感じることができるようになることも視野に入れる。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	フランス語初級	初級では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 論理的な明晰性と洗練を特徴とし、18世紀以降国際外交語としての地位を保ってきたフランス語は、ラテン語をもとにできた言語である。英語の語彙はラテン語やフランス語の影響を強く受けて発展してきたので、相互に学習を助け合える英仏2言語の学習が、国際人へと成長する第一歩となるよう、学力の向上を図る。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	スペイン語初級	初級では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 スペイン語は、母語人口で世界第3位、国際連合の公用語の一つであり、公用語としている国も20か国にのぼる。また、現代のアメリカ社会を学ぼうとするにはスペイン語は欠かせない。世界の人々と交流し、国際的にも通用し得る学力の習得に至るよう向上を図る。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	中国語初級	初級では、正確な発音、音の表記に最も広く用いられているピンイン(ローマ字を用いる)、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 中国語は、東アジア歴史、文化について学び、これへの理解を深めようとする者にとって、欠かせない言語の一つである。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	韓国語初級	初級では、ハングルを覚え、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 日本語に最も近い外国語である韓国語は日本人にとって習得し易く、合理的に工夫された表音文字ハングルを覚えるのは容易である。しかし「似ている」と思われている隣り合う日韓の文化には大きく異なる面もある。韓国語の学習を通して、異なった文化や考え方に触れる貴重な機会ともさせる。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	ドイツ語(読解) A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ語 (読解) B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすドイツ語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	ドイツ語 (作文と文法)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、ドイツ語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	ドイツ語 (会話)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	フランス語 (読解) A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	フランス語 (読解) B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすフランス語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	フランス語 (作文と文法)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、フランス語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	フランス語 (会話)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	スペイン語 (読解) A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スペイン語 (読解) B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすスペイン語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	スペイン語 (作文と文法)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、スペイン語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	スペイン語 (会話)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	中国語 (読解) A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	中国語 (読解) B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなす中国語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	中国語 (作文と文法)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、中国語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	中国語 (会話)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	韓国語 (読解) A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	韓国語 (読解) B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなす韓国語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	韓国語 (作文と文法)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、韓国語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	韓国語 (会話)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
<b>(ギリシア語・ラテン語)</b>			
	ギリシア語初級1	西洋思想の源流であるギリシア哲学や新約聖書をより深く理解するためには、古典ギリシア語の単語や文法について一定の知識が必要となる。この授業では、音読の方法や名詞・動詞・形容詞の基礎的な変化を理解することを通じて、古典ギリシア語が持つ基本的な性格を概観することを目指す。	
	ギリシア語初級2	この授業では、「ギリシア語初級1」に引き続き古典ギリシア語の基礎文法の習得を進める。 名詞・形容詞の第三変化や動詞の中動・受動相、接続法などを理解することを通じて、古典ギリシア語で書かれた原典を読み解く力の基礎を養う。	
	ラテン語初級1	古代から中世を経て近代に至る長い歴史をもつラテン語の規範である古典ラテン語は、人文諸科学を学ぶ者に必須の基本的教養である。この授業では、音読の方法や名詞・動詞・形容詞の基礎的な変化を理解することを通じて、古典ラテン語が持つ基本的な性格を概観することを目指す。	
	ラテン語初級2	この授業では、「ラテン語初級1」に引き続き古典ラテン語の基礎文法の習得を進める。動詞の直説法受動相各時制の人称変化、命令法、不定法、分詞の形などを理解することを通じて、古典ラテン語で書かれた原典を読み解く力の基礎を養う。	
日本語科目	日本語表現法	「日本語表現法」は、大学で学ぶ上で必要な日本語表現力として、論理的な文章表現・口頭表現の力を養うことを目的とする。その土台として、論理的文章を読み解き、ポイントを把握し的確に要約する力を身につける。その上で、自己の考えを論理的に構築する技法を習得する。これに加えて、書きことばと話しことばの違いを踏まえた適切な表現の仕方を学び、最終的に2000字前後の論述文を作成することを課して成果とする。グループワークを適宜取り入れながら、論理的表現力のみならず、批判的思考力も強化していく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報処理科目	情報処理技法 (リテラシ) I	インターネットをはじめとした今日の情報通信化社会で必要とされる基礎的な技能と概念を習得し、問題分析能力や問題解決能力を養うことを目的とする。コンピュータの基本操作、インターネット・WWW・電子メールの概念や仕組み、情報の検索と利用、著作権と引用、ファイルシステム、情報倫理、安全対策、ワープロ・表計算・プレゼンテーションの利用、などを学ぶ。	
	情報処理技法 (リテラシ) II	情報処理技法(リテラシ)Iをもう1段階強化して実践的にアカデミックライティング技術とアカデミックなプレゼンテーション技術を習得する。そのために、Officeソフトを効果的に利用するためのスキルを身につける。また、アカデミックライティングやアカデミックなプレゼンテーション資料の作成を通して、論理的思考力を養う。すなわち文献検索の方法やインターネットの利用方法を学び、情報を効率良く検索し批判的に取捨選択し、それらを用いて生産的に自らのレポートや論文、発表資料として構成しなおす作業を、情報技術を用いて効率良く行える力を身につける。	
	情報処理技法 (Cプログラミング) I	コンピュータに対する命令を順に書いたものがプログラムである。プログラムは、オペレーティングシステムやアプリケーションプログラムなど既存のもの以外に、利用者が作成(プログラミング)することもできる。プログラムの仕組みを学んだ後、C言語を用いてプログラミングの基本を学ぶ。基本データ型(整数型、浮動小数点型)、式と演算子、プログラムの制御構造(順次・選択・反復)、関数を理解し、これらを用いたプログラムの作成を行う。	
	情報処理技法 (Cプログラミング) II	「情報処理技法(Cプログラミング) I」に引き続き、C言語を用いてプログラミングの基本を学ぶ。配列、文字列、ポインタ、構造体、ファイル入出力などを理解する。配列は複数の同じ型のデータを扱うもので、プログラミングにおける重要なデータ構造の一つである。配列の利用例として整列を取り上げる。文字列にも配列が使われる。構造体は複数の異なるデータを扱うもので、応用上重要である。ポインタはC言語に特徴的な機能で、高度なプログラミングには必須である。ポインタは配列とも密接な関係にあり、ファイル入出力もポインタを利用する。	
	情報処理技法 (Javaプログラミング) I	プログラムを記述することで人がコンピュータに命令をし、コンピュータが動作する際の基礎原理を、プログラミング言語Javaを用いて学習する。その後、変数やデータ型、標準入出力、条件分岐、配列、繰り返しなどのプログラミングの基本概念を理解する。これらの制御構造に関しては、各回において演習問題を用いて実習を行うことにより、より深い理解をし、学習したことを組み合わせることで簡単なプログラムを作成することができる技術を身につける。	
	情報処理技法 (Javaプログラミング) II	「情報処理技法(Javaプログラミング) I」の発展として、Javaの特徴の1つである「オブジェクト指向」について、クラス概念や継承、集約等のオブジェクト指向技術の概要を理解し、その基礎的なプログラミング方法を学ぶ。あわせて、アルゴリズムにも触れる。これにより、ソフトウェアの内部構造にも触れ、ソフトウェアの動作の仕組みを学ぶ。また、これらの学習はプログラミングの実習を通して行う。ごく小規模なソフトウェアを作成する技術を習得する。	
	情報処理技法 (マルチメディアと表現) I	情報を表現するための手段として静止画を取り上げ、静止画像のフォーマットやコンピュータでの色の表現の概念、スキャナ・デジタルスチルカメラの利用方法、写真のデジタル編集(Photo Retouch)、描画ソフトを利用した画像の作成と加工、GIFアニメーションなど、静止画表現に必要な知識や技術を実習を通して学ぶ。静止画作品を発表する媒体としてはWebを利用するため、HTMLやWeb公開の基礎から、ユニバーサルなWebデザイン、Webコンテンツ公開時の著作権や肖像権についても触れる。	
	情報処理技法 (マルチメディアと表現) II	情報を表現するための手段として動画を取り上げ、時間とともに変化するビデオ・コンテンツの表現手法について、着想・絵コンテの作成、撮影時のノウハウ、ノンリニア編集、圧縮・保存・公開する一連のDTVの過程を学ぶ。これらの過程は、デジタルビデオカメラを利用してビデオ素材を撮影し、作品を作成するという実習を通して実践的に学んでいく。作品は、YouTubeなどWebによる公開の他にCDやDVD、DVテープなどの多様なメディアでの表現についても学び、ビデオ・コンテンツ作成に関する知識と技術を習得する。	
	情報処理技法 (UNIXリテラシ)	Mac OS XやLinux等、UNIX(Unix系オペレーティングシステム)を端末(ターミナルソフト)から使いこなす技術を身につける。コンピュータは、入力された情報を目的に応じて処理し、その結果を出力する装置である。UNIXの仕組みと特性を学ぶことにより、コンピュータのこのような仕組みを深く理解することができるようになる。この講義では、端末において様々なコマンドを組み合わせることで処理を行う実習を通して、コンピュータを自由に活用できる力を身につける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報処理技法 (統計解析)	取得した情報の分析のために、統計的データ解析の入門から応用までの講義を行う。観測データからどのようなことが推論付けられるか、また如何にして真に有効な、あるいは有益な情報を抽出することができるかを中心に解説する。統計解析ソフトとしては、普及率の高いExcelを用いる予定である。Excelを用いて、データ解析の方法(データの集計、グラフ化、統計的方法による分析)について実習を行う。	
	情報処理技法 (ネットワークとセキュリティ)	インターネットをはじめとするコンピュータネットワークについて、基本的な仕組みを理解し、実習を通じてネットワークの基本的な設定の技術を身につける。ネットワーク利用時のセキュリティについてもあわせて学習する。これらの学習は、ネットワークケーブルの作成やPCへのネットワークの設定等の実習を行うことで、より理解が深まる。自宅等でのごく小規模なネットワークの構築をできるような技術を身につける。	
	情報処理技法 (Webでの情報表現)	受講者に前提知識を必要とせず、誰もが使いやすいWebサイトを実際に製作して発表する科目である。変化の激しいICT社会の中心となっているWebの重要性を理解し、高齢者や初心者や障害者などの誰もが使いやすいWebを、Web標準に準拠して制作するスキルを、設計・制作、評価のプロセスに分けて、実例やサイト制作実習で学ぶ。数ページで構成されるサイトの制作を最終課題とする。モバイル社会の対応も紹介する。	
	コンピュータ・サイエンス I	「コンピュータ・サイエンスII」と併せて受講することにより、コンピュータの基本的な仕組みを理解し、自在に使いこなすための基礎的な素養を身につける。情報処理技術の知識面の基礎を重点的に扱う。この授業では、主に、ハードウェア構成や、コンピュータ上での情報の表現方法に関する知識を学ぶ。これらの内容を、適宜実習を交えることで理解を深める。情報処理技術者試験などの情報処理関連の資格試験の基盤となる内容を広く含む。	
	コンピュータ・サイエンス II	「コンピュータ・サイエンスI」と併せて受講することにより、コンピュータの基本的な仕組みを理解し、自在に使いこなすための基礎的な素養を身につける。情報処理技術の知識面の基礎を重点的に扱う。この授業では、主にソフトウェアに着目し、OSの仕組みや役割、プログラムの言語処理方式、アルゴリズムやネットワーク等について学ぶ。適宜実習を通して、これらの内容の理解を深める。情報処理技術者試験などの情報処理関連の資格試験の基盤となる内容を広く含む。	
教職課程科目	教職論	教職を志す学生を対象に、教員の役割と職務内容の学習・考察を通して、教職の意義に対する理解を深めることを目標とする。特に、今日の学校教育がおかれている現状と課題、自主的、自発的な学習が促されるような授業計画および内容、特別活動・生徒指導・教育相談など教科外指導の概要、学級経営・学校経営・校務分掌、教員の服務規程と研修のあり方といった項目を中心に講義し、教員の多様な仕事を知ることで、教職の意義に対する各自の考えを深める。また、教職に就くために必要な情報や機会の提供も随時行い、教師になるためのキャリア構築を学生自らが遂行できるように支援する。	
	教育原論	教育に関する歴史と思想を概観することで教育の本質と理念を探り、現代社会における教育現象や教育問題に対する新たな視点や視角を得、理解を深めることができるようになることを目標とする。日本と西欧の教育史や様々な教育思潮の歴史の変遷をたどることで、近代公教育の理念と原則や、国家と教育の関係に関わる多様な捉え方を理解する。さらにそうした理解を踏まえて、今日の具体的な教育問題の事例に触れながら、それらを表層的にはなく本源的に分析・考察するための基礎的知識・理解と方法を示す。	
	教育心理学	子どもの発達や学習、動機づけなどの教育に関わる心理学的なテーマについて学ぶ。学校内外の児童・生徒の成長を理解するために必要な教育心理学の基礎分野—発達、教授・学習、人格、社会性、測定・評価、特別支援、思考・認知、臨床—を概観することによって、現代の教育現場における諸問題についても考える。また、現代社会の中で生じている教育心理学的な諸問題について学び、対策と改善点を考察する。	
	教育社会学	家族や共同体や学校などにおける教育を、組織や制度や経営などの観点から捉え、それぞれの社会的な役割と機能および相互の構造的な連関を考察する。主として戦後日本の教育行政と学校経営の理念と組織・制度の歴史と現在、教育改革の動向などを扱う。また、近代学校の役割と機能について、近代社会の原理とされる競争の原理との関連で捉え、ひとり一人の成長・発達と社会統制・存続の両面から理解できるよう、内外の教育を参照しながら考察し、併せて、教育問題への多面的なアプローチの仕方を習得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育課程・教育方法論	「教育課程の意義と編成の方法」および「教育の方法と技術」に関する諸課題を学ぶことで、自らカリキュラムと教育方法を創造していくことのできる自立した教員になるための基礎的な資質を培うことを目標とする。前者に関しては、学習指導要領を中心に、教育課程の編成主体とその変遷・現状・課題を取り上げる。また後者に関しては、教育方法の理念と原理、授業の技術論と教材論、授業における情報機器などの活用といった内容を取り上げる。	
	英語科教育法ⅠA	中学校や高等学校の英語教師が知っていなければならない英語科教育に関連する専門知識を体系的に習得する。それを踏まえて、教室で教育活動を展開するのに必要な指導法と技術を学び、模擬授業によって実践を試みる。特に以下のことに重点を置く。①中学校や高等学校の英語の授業において基本的言語技術を教えるにあたり、生徒の能力を十分に引き出すには、どのような言語活動がよいか。②実際に授業で英語の指導をする際、どのような要因がいかに作用するか。③学習指導案の書き方。	
	英語科教育法ⅠB	これまでに提案された主要な外国語教授法を概観し、それぞれの特色を考察・検討する。それらの教授法を学んだ上で、実際の教室活動では、受講生は個々の教授法を用いた模擬授業を行う。更に、生徒の役にもなり、その授業を受けることによって、個々の教授法を体験的に習得し、その長所と短所を考察する。この活動を通して、中学校や高等学校における効果的な望ましい外国語(英語)の教授法を探る。	
	英語科教育法ⅡA	英語の4技能を統合した授業の実践のために必要な知識や実践力を習得させる。そのために、学習指導要領の理解を深め、教科書や授業ビデオの分析により英語の4技能を統合した授業の特徴を把握する。さらに、実際に学習指導案を作成後、模擬授業を行い、自己評価やピア・フィードバックによる振り返りを行うことで、英語の4技能を統合した授業を実践する資質能力を体得する。	
	英語科教育法ⅡB	英語で行う英語の授業の実践のために必要な知識や実践力を習得させる。そのために、学習指導要領の理解を深め、教科書や授業ビデオの分析により英語で行う英語の授業の特徴を把握する。さらに、実際に学習指導案を作成後、英語で行う英語の授業の模擬授業を行い、自己評価やピア・フィードバックによる振り返りを行うことで、英語で行う英語の授業を実践する資質能力を体得する。	
	道徳教育の理論と方法	道徳教育の理論的背景に関する理解を深めるとともに、「道徳の時間」の指導を行う上で必要な指導案の作成と指導方法に関する基礎的な知識を習得することを目指す。「道徳性」に関する様々な議論・理論を整理し、道徳教育の歴史の変遷と理論的背景を紹介する。ここでは、教育思想・哲学的アプローチと心理学的アプローチ(認知発達理論、役割取得理論など)を柱として構成する。次いで、具体的な道徳指導実践の事例と指導案作成作業を通じて理論と授業実践の関連を検討する。	
	特別活動論	学級活動や生徒会活動、学校行事の実践的な指導方法を検討する。生徒の自発的活動を支援する指導方法について考察させるとともに、家庭や地域の人々と連携し、学校と社会とのつながりの中で、集団の一員としての自覚と自律性を育むための方法を事例を通して指導する。特別活動の学習指導案の書き方を実践的に学び、学級新聞や学級通信の作成を実際に行う。学級活動や学校行事のレクリエーションの基本と、生徒会活動の実施に必要な実践的知識を身につける。	
	生徒・進路指導論	「生活指導」および「進路指導」をの実践を構想できるようになることを目標とする。生活指導に関しては、教師と生徒あるいは生徒相互の望ましい人間関係をどう築くか、集団の中で生徒の個性を埋没させずに認めあっていくにはどうするかといった基本的な内容に加え、不登校やいじめなどの現実的問題も取り上げる。また、進路指導に関しては、生徒が自分の適性を理解して自ら進路を決定するための支援と機会提供を、教育的営みとしてどのように進めていくかといったテーマを取り上げる。	
	教育相談	不登校、いじめ、非行等の問題行動の背景にある諸問題および発達障害について考察する。また、カウンセリングの基礎的な理論と技法を理解し、学校に不適応な生徒の理解と支援、保護者との連携を具体的に学ぶ。児童期から青年期への移行期にある子どもの問題行動の原因と社会的適応についての知識を習得し、どのような指導や援助が求められているのかを事例およびロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを取り入れることによって習得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育実習事前事後指導	<p>教育実習に必要な知識・技能や心構えを身に付け、また、実習の成果を教師としての力量形成につなげることを目標とする。実習の前に、教師としての諸活動に必要な実際的な知識・技能(教育法規、教具、発声など)、あるいは心構えを学ぶ。実習終了後には、少人数のゼミ形式で、各自の報告と相互検討を行い、今後の課題を確認する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)                      (58 竹内久顕、20 大家まゆみ、78 飯高晶子/5回)(共同)                      現職教員、実習を終えた学生等より「教職の意義と理念」「教職の実際と使命」「教育実習体験」について学び、それらを踏まえて教育実習の心構えを身に付ける。                      (78 飯高晶子/1回)                      「発声・朗読」では、発声や朗読の訓練を通して、生徒に明確に伝えるための声の出し方、強弱やリズムや間の取り方などを体験的に習得する。                      (58 竹内久顕/1回)                      「教育法規」では、教師として守らねばならない主要法令(通知・通達を含む)を知るとともに、それらを遵守することの意義を理解する。具体的な場面における法令に基づく指導方法を、ロールプレイやディスカッションを用いつつ学ぶ。                      (20 大家まゆみ/1回)                      「教具の使い方」では、従来の教具に加え、新たに学校教育に導入されたICT教育のあり方について、基本的な操作方法と教育効果のある使い方について知識・技能を身に付ける。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	教育実習	<p>学校現場で、教員として必要な知識・技能を習得することを目標とする。3～4週間、中学あるいは高校の現場で教育実践の実習を行う。そこでは、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師のあり方等を実践的に習得する。</p>	
	教職実践演習(中・高)	<p>はじめに、近隣中学校・高等学校の管理職による「教職の現状と課題」「これからの教員にとって必要な資質」についての講演を聴き、その内容を踏まえて、4年間の教職課程および直近の教育実習を通して学んだことを報告、討論することにより教育実習で気付いた自らの弱点を整理する。その後、「ソーシャルスキルの技法と実践」、「生徒理解と学級経営のあり方を振り返る」、「教科の指導法を振り返る」といった各テーマの討論・レポート作成を中心とする演習で、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (58 竹内久顕、20 大家まゆみ、78 飯高晶子/6回)(共同)                      学校管理職より「教職の現状と課題」「これからの教員にとって必要な資質」について学び、それを踏まえて教育実習を含んだ教職課程で学んだことを報告、討論する。                      (78 飯高晶子/3回)                      「ソーシャルスキルの技法と実践」では、保護者や地域住民との間の学校をめぐるトラブルの解決方法についてロールプレイを通して学び、学校・保護者・地域が協働で運営するコミュニティスクールの事例を実践的に学ぶ。                      (20 大家まゆみ/3回)                      「生徒理解と学級経営のあり方を振り返る」では、個に応じた生徒理解と、学級集団を把握して規律ある学級経営を行う方法を改めて問い直す。                      (58 竹内久顕/3回)                      「教科の指導法を振り返る」では、教職課程の履修や教育実習を通して体得した教科の指導法を、模擬授業を通して検証する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	特別支援教育と社会福祉	<p>介護とは何か(療育施設や福祉施設の成り立ちを含む)、対象施設の概要、施設利用者の概要、ADL(日常生活活動)とQOL(生活の質)ー福祉用具の実際を含む、障害模擬体験による障害理解(視覚障害、聴覚障害、脳血管障害片麻痺、認知症など)、介護等体験に必要な基礎知識と基本的な介護技術等を学ぶ。介護をめぐる社会的背景や介護を必要とする人々の心身の状態について理解を深め、生活の質を向上させるための支援について考えていく。</p>	
学芸員課程科	博物館概論	<p>博物館は、人間と人間を取り巻く環境に関する様々な「もの」を収集し、保存・調査・研究して、公開・活用している。こうした博物館に関する基礎知識、すなわち、博物館の意義と役割について学ぶ。博物館の定義・種類・歴史、さらに博物館関係法令や博物館学の役割などを順を追って学んでゆく。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
目	博物館資料論	博物館はさまざまな資料を収集し、整理・分類・調査・研究し、保存・活用している。資料の収集では、購入・寄贈・借用・採集など具体的方法を学ぶ。資料の分類・整理では、多様な資料の分類と整理、そして調査・研究を経て、目録や図録の作成と情報発信に至るまでを学ぶ。なお、資料の保存は「博物館資料保存論」で、資料の活用は「博物館展示論」で主に展開される。	
	博物館経営論	博物館を運営するための基本的な仕組みを学ぶ。博物館運営の枠組は大きくは①予算、②組織(人事)、③施設などからなり、その運営にあたっては、会社や学校などとは異なる博物館特有の問題がある。こうした点を踏まえながら博物館運営の特質を学ぶ。社会と博物館との関係の築き方については、展示はもとより、様々な関連イベント、利用者との関係づくりなど、様々な事業活動がある。博物館経営の視点からそれら事業活動の現状と課題について学ぶ。	
	博物館資料保存論	温度・湿度・照明・大気などが資料の保存にどのような影響を与えるかを学び、同時に対策を考える。同じく生物が資料に与える害と対策を学ぶ。そして、資料保存の歴史と意義、さらに資料の修復や複製品の製作、屋外の文化財の保存や災害の防止と対策などを学ぶ。	
	博物館展示論	博物館のもつ外的事業の軸となる展示活動について、①企画・立案、②資料の選択、③展示案の確定、④解説プレート・図録の作成、⑤会場の設営、⑥展示の実行、⑦関連事業、⑧広報、⑨後片付けなど、一つの展示達成のための作業を逐一詳しく学ぶ。同時に関連事業やイベントの在り方、ボランティアの活用など、市民参加の展示活動の実態についても学ぶ。	
	博物館教育論	博物館における教育の意義と理念を学ぶ。学びの場としての博物館は、実物を見ることができること、体験できることという利点をもっている。学校教育との連携や多様化しつつある教育のあり方の中で、博物館が担うべき部分の工夫と創造を模索する。	
	生涯学習論	生涯学習の意義を考えつつ、老人・主婦・サラリーマン・学生など全ての人々の学習の場のあり方を、国内外の具体例を検証し、学ぶ。また、公民館職員・図書館司書・博物館学芸員など社会教育に携わる人々の役割と使命を考える。	
	博物館情報・メディア論	博物館における情報・メディアの意義および情報発信の課題を学ぶ。併せて、さまざまな情報を掴みとること、および、視覚をはじめ人間のもつ五感に訴える効果的・効率的な情報機器の活用法を学ぶ。これらの学習をとおして博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的な能力を養う。	
	博物館実習 1	資料の取り扱い方に関する基本的知識・技術の習得を目標として、巻物や掛け軸などの実物資料を用いた実習を行う。またそれを踏まえ、調査研究をはじめとした諸業務の遂行力を実習をとおして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。	
	博物館実習 2	博物館実習1の授業内容を踏まえ、資料の取り扱いをとおした博物館の諸事業、たとえば展示の企画立案・広報・関連事業などの諸業務の遂行力を実習をとおして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。	
	博物館実習 3	本授業は、①実際の博物館現場における7～10日程度の博物館実務実習(館園実習)、②学内における事前・事後指導の授業、③個別の指導によって構成される。博物館実務の一端は「博物館実習1・2」で習得しており、この授業では実際の博物館の現場において、諸業務の実際を現場体験することで、運営実務の実践的能力を習得する。実習期間中は担当学芸員の指導を受けつつ実務を学び、実習ノートを作成して担当学芸員に提出し、その指導を受け、翌日には改善するなど積極的に学ぶようにする。学内においても実習効果を高めるため事前・事後指導の授業、個別指導を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国人留学生特別科目	日本語Ⅰ（入門）	外国人留学生が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語Ⅰ（入門）」は、入門として受講者の日本語能力を考慮し、運用能力の向上を目指す。受講者個々の理解度を確認しつつ、2名の担当者が相互に連絡・調整を行いながら進める。 「日本語Ⅱ（応用）」とともに第一外国語の必修単位に代えることができる。週4コマの授業。	
	日本語Ⅱ（応用）	外国人留学生が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語Ⅰ（入門）」で学んだことを応用して、さらに日本語の運用能力の向上を目指す。専門科目等で必要な発表、プレゼンテーションの技術も修得する。受講生個々の理解度を確認しつつ、担当者相互に連絡・調整を行いながら進める。 「日本語Ⅰ（入門）」とともに第一外国語の必修単位に代えることができる。週4コマの授業。	
	英語初級Ⅰ	外国人留学生が英語のReading、Listening、Speaking、Writingの力をバランスよく習得することを目標とする。受講者の英語力に合わせ、興味深い教材を使用して、読解力、表現力等の育成を目指す。「英語初級Ⅱ」とともに第二外国語の必修単位に代えることができる。週2コマの授業。	
	英語初級Ⅱ	外国人留学生が英語のReading、Listening、Speaking、Writingの力をバランスよく習得することを目標とする。「英語初級Ⅰ」で学んだことを踏まえて、さらに英語の運用能力の向上を目指す。受講者の英語力、理解度を確認しながら、興味深い教材を使用して、読解力、表現力等の育成を目指す。 「英語初級Ⅰ」とともに第二外国語の必修単位に代えることができる。週2コマの授業。	
	日本事情A	「人間社会の仕組みと問題」をテーマとし、外国人留学生が日本語で日本の社会について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。 総合教養科目の「人間社会の仕組みと問題」領域の2単位に代えることができる。	
	日本事情B	「人間の知的生産」をテーマとし、外国人留学生が日本語で日本の歴史について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。 総合教養科目の「人間の知的生産」領域の2単位に代えることができる。	
	日本事情C	「人間自身を知る」をテーマとし、外国人留学生が日本語で日本の思想、宗教、日本人のこころ等について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。 総合教養科目の「人間自身を知る」領域の2単位に代えることができる。	
日本事情D	「人間の知的生産」をテーマとし、外国人留学生が日本語で日本の文化について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。 総合教養科目の「人間の知的生産」領域の2単位に代えることができる。		

## 組織の移行表

### 学部等の設置、収容定員の変更

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
平成 29(2017)年度				平成 30(2018)年度				
<b>東京女子大学</b>				<b>東京女子大学</b>				
<b>現代教養学部</b>				<b>現代教養学部</b>				
人文学科	345	-	1380	<u>国際英語学科</u>	<u>155</u>	-	<u>620</u>	学科の設置(届出)
国際社会学科	225	-	900	人文学科	<u>200</u>	-	<u>800</u>	定員変更(△145)
人間科学科	260	-	1040	国際社会学科	<u>270</u>	-	<u>1080</u>	定員変更(45)
					<u>0</u>		<u>0</u>	平成 30 年 4 月学生 募集停止
				<u>心理・コミュニケー ション学科</u>	<u>195</u>	-	<u>780</u>	学科の設置(届出)
	60	-	240	数理科学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更(10)
<b>数理科学科</b>				<b>計</b>	<b>890</b>	<b>-</b>	<b>3560</b>	
<b>計</b>	<b>890</b>	<b>-</b>	<b>3560</b>					
<b>東京女子大学大学院</b>				<b>東京女子大学大学院</b>				
<b>人間科学研究科</b>				<b>人間科学研究科</b>				
人間文化科学専攻 (博士前期課程)	22		44	人間文化科学専攻 (博士前期課程)	22		44	
人間文化科学専攻 (博士後期課程)	4		12	人間文化科学専攻 (博士後期課程)	4		12	
人間社会科学専攻 (博士前期課程)	20		40	人間社会科学専攻 (博士前期課程)	20		40	
生涯人間科学専攻 (博士後期課程)	5		15	生涯人間科学専攻 (博士後期課程)	5		15	
<b>理学研究科</b>				<b>理学研究科</b>				
数学専攻 (博士前期課程)	6		12	数学専攻 (博士前期課程)	6		12	
数学専攻 (博士後期課程)	3		9	数学専攻 (博士後期課程)	3		9	
<b>計</b>	<b>60</b>		<b>132</b>	<b>計</b>	<b>60</b>		<b>132</b>	